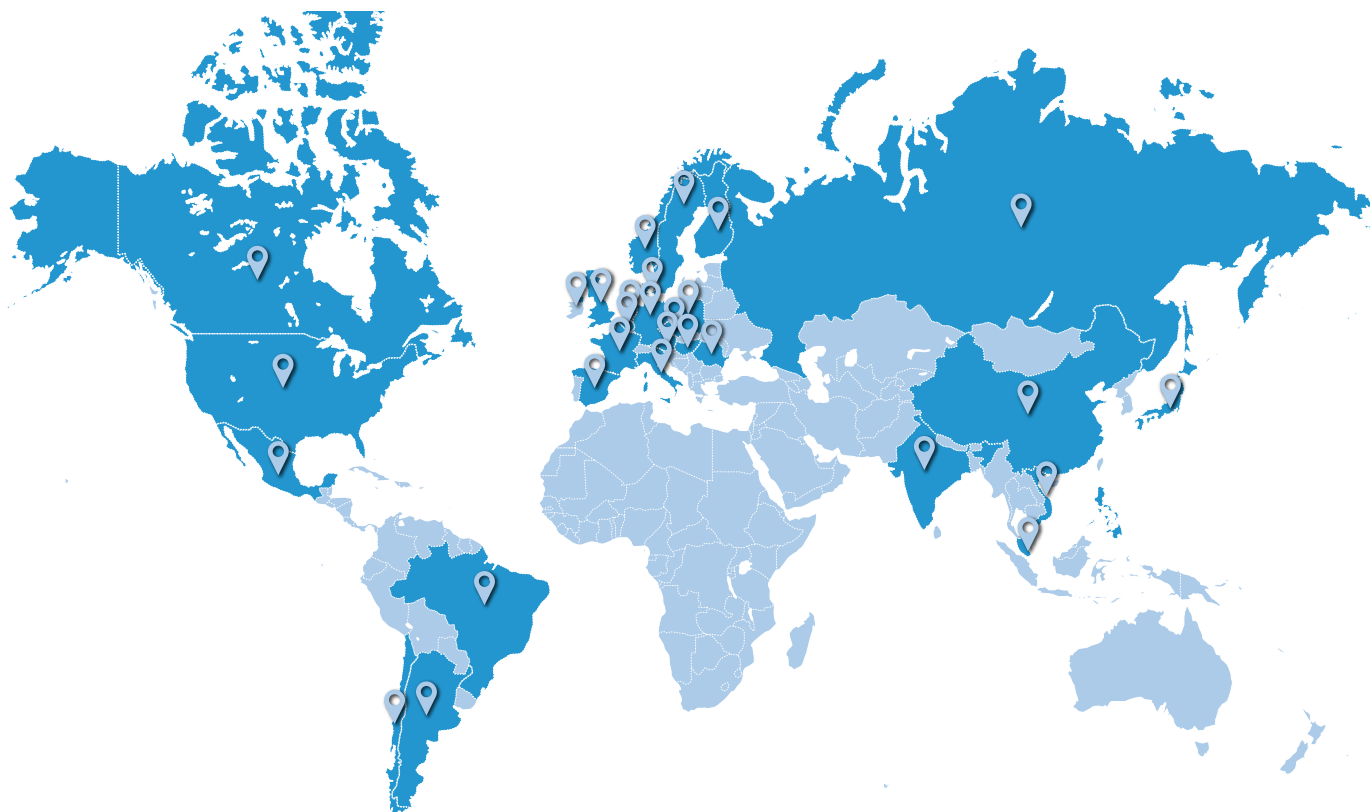


NSGサステナビリティレポート 2016
ガラス技術で世界に変革を



NSGサステナビリティレポート 2016について

NSGグループは、ガラスおよびグレーディングシステムの世界最大のメーカーの一つで、建築用ガラス、自動車用ガラスおよび高機能ガラスの3つの事業分野で事業を展開しています。グループ従業員数は約27,000人。世界29カ国に主要な製造拠点をもち、100カ国以上で製品の販売を行っています。



主要な製造拠点所在国

英国	ルーマニア	マレーシア	イタリア	ロシア	スウェーデン	オランダ
フランス	ハンガリー	カナダ	チリ	中国	ノルウェー	ポーランド
スペイン	チェコ共和国	米国	インド	ブラジル	デンマーク	日本
ベルギー	オーストリア	メキシコ	ドイツ	アルゼンチン	フィンランド	ベトナム

表紙の写真

当社製ガラスを採用したトヨタの新型PRIUS PHV(プラグインハイブリッド)ダブルバブルバックウィンドウは空気抵抗を軽減します。
写真提供:米国トヨタ

目次

サステナビリティ戦略

社長メッセージ	02
サステナビリティへのアプローチ	04
目標	08
報告アプローチ	09

事業

事業概要	10
バリューチェーン	11
建築用ガラス	12
自動車用ガラス	14
高機能ガラス	16

事業基盤

コーポレートガバナンス	18
倫理規範	19
安全・衛生	20

環境

環境方針	22
エネルギー使用	24
大気への排出	26
廃棄物削減	28

ステークホルダー

顧客	30
株主・投資家	32
従業員	34
地域社会	36
サプライヤー	38

社長メッセージ



「私たちは、私たちの製品やサービスが社会・環境に貢献することを重視し、企業戦略を策定しています」

当社グループは、ガラス技術で世界に変革をもたらすというビジョンと、グループの持続可能な発展に向けた積極的な行動により、世界の限りある資源を有効に活用するという課題に挑戦し続けています。

ガラスの製造工程では大量のエネルギーを消費しますが、ガラス製品を活用することにより気候変動の社会的影響を軽減することは可能です。当社グループは事業活動を通じ、社会と環境の両面に対し大きな貢献ができるように努めています。あらゆるステークホルダーの要求をバランス良く満たしながら、私たちのサステナビリティ目標の達成を目指しています。

新しいサステナビリティ目標は、当社グループ長期戦略における優先事項とこれまでの活動の達成状況を考慮して制定しました。事業活動の環境負荷を管理することで、地域社会と調和しつつ、エネルギー効率向上と資源管理の改善に取り組んでいきます。今年も引き続き、設備稼働率改善とさらなる省エネ対策により温室効果ガスを削減しました。

従業員を含む全てのステークホルダーの健康と安全は、当社グループが事業に携わる上での基本条件です。私たちがこの原則を忠実に守り続けていることは、毎年開催している「NSGグループ安全の日」に見ることができます。私たちは「国連グローバル・コンパクト」参加企業の一員としてその全ての理念の普及を支持します。「NSGグループ倫理規範」は同コンパクトの延長線上にあり、日常業務における具体的な行動指針を示しています。

良好なコーポレートガバナンスは当社グループの持続可能な発展の基礎です。この基礎を強固なものとし、東京証券取引所の「コーポレートガバナンス・コードの各原則」への支持を表明するため、「NSGグループコーポレートガバナンスガイドライン」を制定しています。

私たちは安全かつ倫理的な事業活動を通じ、これからも当社グループ内でのサステナビリティ原則の徹底に努め、環境保護に貢献していきます。

森 重樹

代表執行役社長兼CEO
Shigeki Mori

当社グループは、建築用ガラス、自動車用ガラス、高機能ガラスの各事業部門において、気候変動の影響軽減や安全性の向上に役立つ様々な高付加価値 (VA) 製品を提供しています。

VA戦略

当社グループ長期戦略ビジョンは、高付加価値ガラス企業「VAガラスカンパニー」に変容・変革することです。「VA」とは、英語の「value-added (高付加価値)」に由来します。私たちは、顧客企業と共に革新的な製品を開発しつつ、VA製品・サービスの比率を高めていきます。顧客企業と密接に協力し、各顧客企業のサステナビリティ目標の達成に貢献し、製品ライフサイクルを通じて環境負荷を軽減する製品およびサービスを提供してまいります。

当社グループの取り組みは、省エネ、そして社会と環境のサステナビリティに対する顕著で永続的な貢献につながっています。人事、資源、地域社会、環境を適切に管理することは、事業の発展にもつながるのです。

建築用ガラス事業

自動車用ガラス事業

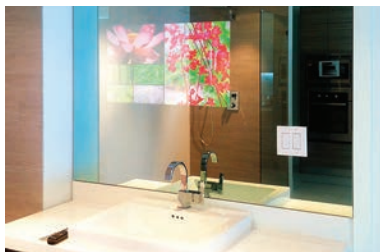
高機能ガラス事業

VA製品およびサービス

太陽光発電用ガラス
真空ガラス
デジタルサイネージ
防火ガラス

ソーラーコントロール技術
ヘッドアップディスプレイ (HUD)
軽量ガラス
補修用ガラス

バッテリーセパレーター
エンジン用タイミングベルト
耐食塗料コーティング
LEDプリントヘッド



社会と環境に貢献

サステナビリティへのアプローチ

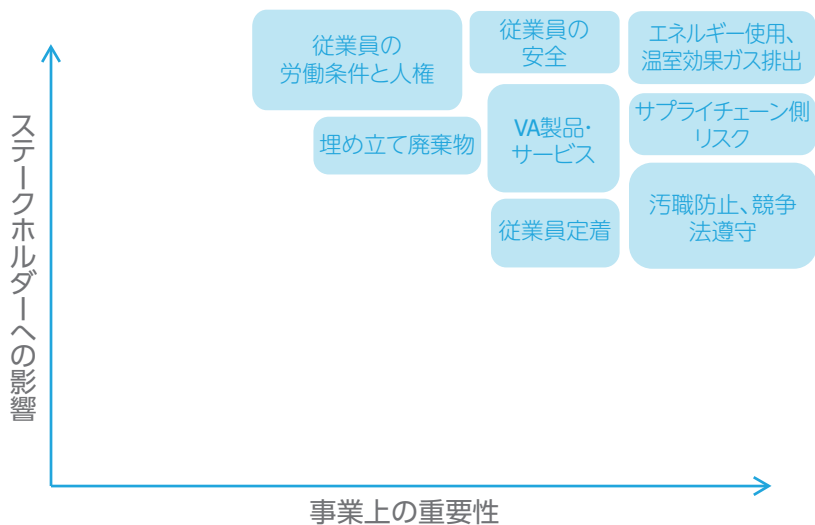


「気候変動のリスクに対して、NSGグループは環境面で積極的に貢献することができます。」

ガラスは、温室効果ガスの排出削減や気候変動の影響緩和に向けた社会の取り組みに大きく貢献しています。NSGグループは、革新的な高性能ガラス製品の分野でグローバルリーダーとなり、省エネ・創エネに貢献し、安全かつ企業倫理に即した事業活動を行うことを目指します。

当社の生産性改善施策により、引き続きエネルギー消費量の低減、温室効果ガス排出および廃棄物の削減が推し進められています。従業員に対しては教育・育成を継続的に実施し、人権を尊重した安全な職場環境を提供しています。当社グループは、現行のキーサプライヤーに対するサステナビリティ活動の評価を通じて、請負業者やサプライチェーンに対してもサステナビリティの実現に向け賛同を働きかけてまいります。

重要性評価の結果



NSGグループにとって、サステナビリティの実現に向けた取り組みはコスト削減と事業機会の拡大に必要不可欠な要素です。2016年においても当社グループは、業績に対する効果が大きくかつ即効性のある、エネルギー節減や廃棄物削減などに向けた取り組みを継続してきました。お客様の要求はかつてないほど高まっており、世界各地のガラス市場で競争が激化する中、そのニーズに対応できることは重要な意味を持ちます。

サステナビリティ統括部長
小林史朗

マテリアリティ(重要課題)

このレポートでは、ステークホルダーが当社グループに何を望み、何を懸念しているのか、企業評価を大幅に左右する情報を、マテリアル(重要)な情報と位置づけています。当社グループでは、サステナビリティ委員会で、企業活動が経済・環境・社会に与える著しい影響や、年間を通じてステークホルダーから寄せられた意見を基にして、マテリアリティ(重要課題)を決定し、サステナビリティ目標に織り込みました。

ステークホルダーにとって最重要事項である財務課題については、このレポートとは別にアニュアルレポートでお知らせします。財務の健全性は依然として当社グループの重要課題であり、戦略面でも日常業務でもコスト削減が不可欠です。

中期経営計画(MTP)フェーズ2(32、33ページ参照)達成には、顧客とのコミュニケーションを通して要求事項と関心事をより深く把握することが欠かせません。そのために、私たちは営業リーダー育成プログラムを開発し、営業マネージャーのマーケティング・戦略スキルの強化に努めています。

この他にも各種のリーダー育成・能力開発プログラムを通じて人材喪失リスクの最小化を図っています。従業員意識調査へのフィードバックは教育・能力開発計画の改善に生かされ、健康で活力ある職場環境につながっています。

「事業は人なり」は当社グループの経営理念の根幹を成すものです。安全リスクの最小化はあらゆるステークホルダーにとって重要です。私たちは管理プログラムにより職場の安全を守ります。

当社グループの発展は社会的評価と不可分です。私たちはコーポレートガバナンスと倫理的な事業活動の双方で優れた実績を示し、ステークホルダーや顧客の高まる要求に真摯に対応していきます。2015年3月に改めて策定した「グループ倫理規範」には、正しいやり方で事業に従事し規制・社会評価リスクを最小化する決意を反映しました。2015年5月に制定した「NSGグループコーポレートガバナンス・ガイドライン」に従い長期戦略ビジョンに沿ってMTPフェーズ2を進めます。同ガイドラインに合わせ、コンプライアンスと懸念事項報告に関するグループポリシーも改定しました。

事業に必要なエネルギー使用とそれに伴うCO₂排出はコスト、安全、規制リスクであるばかりでなく、大きな環境負荷となります。作業効率は従来から事業上の主要課題でしたが、今や政府、投資家、顧客からも重視されています。

規制当局と顧客からの要求は、持続可能で革新的な製品デザインを生かした高付加価値製品へシフトするチャンスとなります。

サプライチェーンのリスクと影響、特に原材料のサステナビリティとサプライヤーの環境・人権面での実績は、当社グループと顧客にとって重大関心事です。こうした点に関する懸念を持たれることが無いよう、私たちは主要サプライヤーのサステナビリティ行動を評価しています。

マネジメントアプローチ

当社グループはそれぞれの地域社会や政府機関と協力し、法令を遵守し、将来を見据えて事業に取り組んでいます。これについては、一企業として直接対応するとともに、加盟する各種業界団体、標準化団体などの組織を通して間接的にも対応しています。また、省エネ・排出量規制の分野を中心に法規制の整備を促す活動にも取り組んでいます。

ガラス製造はエネルギー多消費型産業です。ガラスの原材料の調達および溶解には大量のエネルギーが消費されます。製造工程ではこうしたエネルギー資源の消費がどうしても必要となりますが、このエネルギーは当社製品を使用いただくことで、速やかに節約できることとなります。当社のガラス製品は、気候変動への取り組みと生活・職場環境の質的改善に大きく貢献します。

サプライヤー各社には「サプライヤー行動規範」を通知し、サプライヤーから提出頂いた宣誓書を検証するための審査を実施しております。

当社製品の主原材料である鉱物資源も製造に必要なエネルギーも、地球から採取しなければならないものです。そのため当社グループには、こうした資源採取の影響を受ける地域の自然環境保全に真剣に取り組む責任があります。

「倫理規範」はNSGグループの「経営理念と行動指針」を反映し、特に安全や主体的行動、オープンで積極的なコミュニケーションを重視しています。倫理規範に従うことで、私たちは安全かつプロフェッショナルに、法に則って倫理的に様々な活動に従事することができ、企業の社会的責任を果たし、サステナビリティを促進することができます。この倫理規範では、公正で良識ある事業への取り組み方とは何かを可能な限り明確に定義しています。これらの中には法規制による厳格な要求に基づいて定められている項目もあります。

私たちはポリシーおよびプロシージャーで、健全な統治、厳格な統制およびリスクマネジメントの実現、ならびに法的・倫理的・持続可能な諸原則の遵守に向けて、当社グループの全従業員が遵守すべき手続きの詳細を規定しています。

サステナビリティへのアプローチ

環境

NSGグループは環境に対する責任を真摯にとらえています。あらゆる事業を行う上で、法的基準を遵守することは企業として最低限守るべき義務です。私たちは環境監査を定期的を実施し、継続的な改善を通して水準の維持・向上に努めています。

「NSGグループ環境ポリシー」は、現在の事業活動はもちろん過去の事業活動や買収先など他社から引き継いだ責任を含めた環境管理について定めています。NSGグループはこのポリシーに則り、当社の事業がもたらす環境への影響を、確かな科学的根拠に基づき予測・評価しています。

ガラス製造業が地域環境および地球環境に影響を与えることを認識した上で、環境へのマイナスの影響をコントロールするシステムを整備し、負荷を最小限に抑えるための対策を講じています。NSGグループの環境マネジメントシステムは、その要となるものです。自動車用ガラス製品の製造拠点及び大多数のガラス製造拠点は、環境マネジメントシステムの国際的な規格であるISO14001の認証を取得しています。

私たちは、環境管理の結果いかんにかかわらず、必ず報告を行います。環境関連データはエネルギー、大気中への排出量、水使用量、リサイクル、廃棄物などの項目ごとに集められます。これらの項目は、GRI(グローバル・レポート・イニシアティブ)ガイドラインの環境パフォーマンスの中核指標を参考にしています。環境データは、オンライン報告システム「Airsweb™」によって収集されます。「Airsweb™」は同時に災害報告機能も兼ね備えています。環境に関する当社グループの最高責任者は、サステナビリティ統括部長です。

社会

NSGグループは、事業を展開するそれぞれの地域社会において環境を管理し、社会を構成する重要な一員として果すべき責任を負っていると考えています。私たちは、汚染、騒音、交通渋滞などの起こり得る弊害を最小限に抑えるべく努めています。また、事業参入や操業、撤退などを含め私たちの事業活動が地域社会に与える影響を評価・管理するプログラムを運用しています。NSGグループは、地域における事業活動を継続するための事業投資に加えて、地域社会への投資も行っています。

慈善活動などへの寄付金や物資の提供等を通じて、地域社会への貢献や社会問題の解決に取り組んでいます。NSGグループの従業員は、地域社会と積極的に関わっていくことが奨励されています。例えば、従業員による募金に会社が同額を拠出する方法での募金活動の奨励や、従業員が地域のプロジェクトにボランティアとして参加する際のサポートを行っています。地域社会・社会問題に関する当社グループの最高責任者は、サステナビリティ統括部長です。

人権

「NSGグループ倫理規範」では、国際的に宣言された人権を尊重することを明確にしています。当社グループはこの人権尊重の考え方に沿った雇用方針・雇用慣行をグループ全体に適用することにより、従業員の公正な取り扱いを保証しています。

NSGグループの雇用機会均等・多様性に関するポリシーは、人種、皮膚の色、信条、宗教、年齢、性別、性的指向、国籍、障害の有無、労働組合への加入、政治的所属、その他の法で保護されたあらゆる地位・状況を理由とする差別の禁止を目的としています。

人権に関する当社グループの最高責任者は、最高人事責任者(CHRO)です。

製品責任

当社グループは、顧客に当社製品を簡単に取扱い、施工・使用していただけるよう、製品使用時の安全確保についても万全を期しています。製品リスク評価プロシージャーを定め、リスクを特定し、顧客に使用上の注意事項をお知らせしています。安全データシート、製品ラベル上での注意喚起のほか、安全上の注意事項をまとめた「ガラスの取扱いと施工に関するガイドライン」を通して、製品リスクに関する情報提供を行っています。

全ての新製品および新工程に関する研究開発プロジェクトにおいて、早期段階での環境影響アセスメント実施が義務づけられ、プロジェクトが環境に与える可能性のあるプラスとマイナスの影響が明らかにされます。当社グループは製品ライフサイクルの全ての段階において環境衛生と環境保護に配慮する、持続可能な循環型社会への貢献を目指しています。

当社グループは正式なプロジェクト管理プロセスの一環として徹底した知的財産調査を実施しています。これにより顧客は第三者に対する特許権侵害を心配することなく、当社が開発した製品やプロセスを使用できます。製品責任に関する当社グループの最高責任者は各事業部門の部門長です。

労働慣行

「事業は人なり」は当社グループの経営理念の根幹を成すものです。私たちの人事戦略は、多様な人材を適切なポジションに配置し、各個人の能力が最大限に発揮できるよう人材を管理・育成することを目指します。

全ての事業活動において安全と品質を第一に考え、雇用方針の柱として「オープンなコミュニケーション」を推進しています。

NSGグループは、国際的に統合された経営を行っている企業グループです。経営陣の国籍は多彩で、従業員のうち80%は日本国外で働いています。グループではダイバーシティに対応した従業員採用を行っています。多種多様な国籍、スキル、資格、経験などが私たちの事業に与えるメリットは非常に大きいと考えています。国籍、出身地域を問わず、適材適所を旨とする人材配置を行っています。優秀な従業員の雇用、モチベーション、育成、定着を目的とした報酬・雇用方針を採用し、常勤・非常勤を問わず、能力の高い従業員には市場競争力のある報酬・手当を提供しています。

特に新興市場において優秀な人材を採用・長期雇用する上での課題を明らかにし、解決に向けた方針を策定しました。当社グループは、全従業員が、脅されたり、報復行為、ハラスメントを受ける心配をせずに安心して働ける企業文化の醸成に努めています。従業員が懸念事項についての報告・相談を、秘密保持の確保された状態で適時に行うことができる制度を設置しています。労働慣行に関する当社グループの最高責任者は、最高人事責任者（CHRO）です。

NSGグループは従業員全員の健康と安全を最優先し、従業員がその能力を最大限に発揮できる職場環境を提供することを目指しています。NSGグループの安全プログラムでは、一人ひとりが安全への自覚と責任意識を持つこと、安全行動を遵守することを重視しています。

私たちは、全ての労働災害は未然に防ぐことができると考えます。どんなに些細な災害も報告・調査することが求められます。安全に関する実績についての詳細は、本レポートの「安全・衛生」のセクションをご覧ください。



NSG環境安全衛生アワード2016

NSG環境安全衛生アワードは、優れた環境安全衛生プロジェクトに取り組んだ個人やチームの功績を広く称えて表彰するものです。環境、安全、衛生に関する特筆すべき取り組みの多くは従業員の間から生まれます。例えば、衛生および安全リスクの軽減策、汚染の最少化、省エネ、廃棄物、水または原料の削減・リサイクル・再利用方法等です。審査は、経営陣と安全衛生問題の専門家等によって行われました。2016年受賞プロジェクトについては21、23ページをご覧ください。



人事プログラム

「事業は人なり」は当社グループの経営理念の根幹を成すものです。私たちの人事戦略は、適切な人材を配置し、個人の能力が最大限に発揮できるようにグローバルな人材管理・人材育成を目指します。

目標

目標	2018年3月期に向けた目標	2016年3月期の進捗状況
安全	<ul style="list-style-type: none"> 重大災害度数率を年10%ずつ改善 死亡事故ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> 2016年3月期の重大災害度数率(SIR)実績は0.33で、前年度比で6%の削減となった。 死亡災害ゼロ。安全衛生に対する詳細な取り組みについては、20ページを参照
廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> 埋め立て廃棄物を6,000トン(2013年基準比で20%)削減。 	埋め立て廃棄物を2015年までに2007年基準比で半減する目標を2013年に達成。2015年の埋め立て廃棄物は23,000トンで2014年比14%削減、2013年基準比で25%削減となる。(28-29ページ参照)
エネルギー・CO ₂ 削減	<ul style="list-style-type: none"> ガラス生産工程においてCO₂排出量を毎年1%ずつ削減。2018年3月期までにNSGグループの事業活動によるCO₂排出量の少なくとも70%を削減対象とする。 	2016年3月期のCO ₂ 排出量は製品1トン当たり0.77トンだった。これは2015年度比1.5%の改善となる。(24-27ページ参照)
持続可能なVA製品	<ul style="list-style-type: none"> 総売上に占めるVA製品の比率を約1/3から2020年3月期には1/2まで高める。 各製品の環境的・社会的付加価値を実証する。 	<ul style="list-style-type: none"> VA比率は着実に増加し、2016年3月期時点で40%に到達した。 製品の環境的・社会的貢献については12-17ページを参照。
調達・輸送責任	<ul style="list-style-type: none"> 新規サプライヤーに対する行動規範周知の継続、既存サプライヤーとの間の現行の取り決めを維持 サステナビリティ評価対象サプライヤーを毎年20%ずつ拡大 環境負荷リスクの高い物質を扱うサプライヤーを継続的にモニタリング サプライチェーンパートナーと協力して物流システムを刷新し、当社グループ製品の環境負荷を改善 	<ul style="list-style-type: none"> 主要サプライヤーの60%が「サプライヤー行動規範」に同意またはこれと同等の規範を独自に制定 2016年は前年比で14%拡大した。 引き続き順調な進展しており、2016年にはこの分野での要求に対する遵守状況を8%改善した。 2016年中にグループ全体で多数のプロジェクトが実行されCO₂排出削減で著しい進展が見られた。具体例はグループ購買(27、38-39ページ)に掲載。
従業員	<ul style="list-style-type: none"> 従業員のエンゲージメント調査を継続する。2014年に実施した従業員意識調査結果へのアクション計画をすべての組織で立案し、2016年3月期までに90%完了を目指す。 今後もパフォーマンス管理の諸施策を継続し、人事考課のプロセスが適正基準の下運営されるよう留意する。2016年3月期までにすべての考課者が部下の育成議論を改善するためのトレーニングに参加する。 2018年3月期までに従業員の75%を対象に個人または組織単位での人材開発計画を策定する。 コマースマネージャー全員がコマースリーダーシッププログラムに参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 2014年従業員意識調査に基づき150のプログラムが策定された。2016年3月期現在、世界全体でプログラムの完了率は81% 2016年3月期現在、人事考課担当者の95%が研修を受講 能力開発プロセス対象の従業員の88%に対して個人またはグループでの能力開発計画を策定 営業マネージャーの50%に対し研修プログラムを実施するという、大きな節目となる目標を2016年3月期までに達成
倫理・コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> 倫理規範の再徹底、解説・研修実施率100%を維持 新倫理・コンプライアンスホットラインの周知とあらゆる懸念事項の報告徹底を継続 有効な倫理・コンプライアンス指標を確立、追跡、報告 「ガバナンス・リーダーシップ文化評価(GLCA)」の再実施 	<ul style="list-style-type: none"> 2016年3月末までに75%完了 グループのイントラネットから直接つながるようになったことでホットライン周知が進んだ。 倫理的な問題が起きないようにするための活動の指標設定に主眼を置くことで合意 2016年6月初頭に目標を達成した。人事、広報および倫理担当部門が改善すべき分野に取り組む。

報告アプローチ

本レポートは、NSGグループの活動のうち非財務パフォーマンスを伝えるコミュニケーションの一環として作成され、グループ全体をはじめ、地域レベル、拠点レベルでの報告を反映しています。特に明記しない場合、本レポートでは当社グループが経営支配権を有する事業活動を対象とした記述となります。当社グループの環境パフォーマンスについては、フロートライン28基および型板ガラスの製造拠点5カ所に関して詳細なデータを記載しています。当社グループが経営支配権を有しない合併事業の拠点は除外しています。建築用ガラス事業、自動車用ガラス事業および高機能ガラス事業それぞれの川下加工事業は全て本レポートに含まれます。本レポートに記載の安全実績の統計は、当社グループ内で働く方々(当社グループ社員およびサイト内の協力会社社員)の数字です。

当社グループの環境パフォーマンス、社会的パフォーマンスは、ステークホルダーの皆様の関心事項であるとともに事業の成功をもたらす重要な要素です。そのため、NSGグループは2002年より継続的に、環境・社会活動報告書やCSRレポートによってこれらの事項を報告してきました。2009年に、NSGグループの「サステナビリティレポート」の第1号を発行し、サステナビリティの全ての側面を網羅するよう報告範囲を広げました。NSGグループは、2009年6月に「NSGグループサステナビリティポリシー」を公表し、自らのサステナビリティ目標を定めました。また、2009年12月には、サステナビリティの推進のための取り組みを管理、調整、モニタリングする「NSGグループサステナビリティ委員会」を設立しました。2010年、当社取締役会は、具体的なサステナビリティ目標について決定しました。サステナビリティ目標および目標に対する進捗状況を本レポートの8ページに掲載しています。2012年にNSGグループは、サステナビリティ統括部長に小林史朗を任命しました。サステナビリティの原則がグループの全ての事業活動に織り込まれるよう取り組みを推進するサステナビリティ委員会の委員長はクレメンス・ミラーCOOが務めています。2018年に発行予定のサステナビリティレポート、または統合報告書で、その後の進捗についてご報告したいと考えています。

本レポートは、組織の経済、社会、環境面におけるパフォーマンスや対応についての、国際的に認められた報告枠組である「グローバル・レポーティング・イニシアティブ(GRI)サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン」に準拠し、作成されています。



事業概要

当社グループは、3つの事業分野で事業を展開しています。建築用ガラス事業は、世界の建築用ガラスのほか、太陽光発電分野にガラスを提供しています。自動車用ガラス事業は、世界市場で自動車用ガラスおよびグレージングシステムを製造・販売しています。高機能ガラス事業は、ディスプレイやオフィス機器、ガラス繊維分野で事業を展開しています。

* 2016年3月期末現在

建築用ガラス事業

フロートガラス技術とコーティング技術のリーディングカンパニー

40%

グループ売上に占める割合*

自動車用ガラス事業

世界中の主要な自動車メーカーに製品を提供

50%

グループ売上に占める割合*

高機能ガラス事業

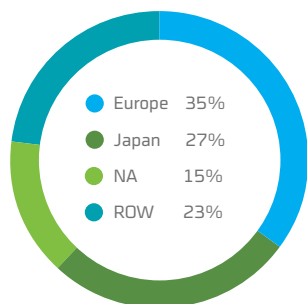
ディスプレイ用薄板ガラス、オフィス機器用光学製品の分野でトップメーカー

10%

グループ売上に占める割合*

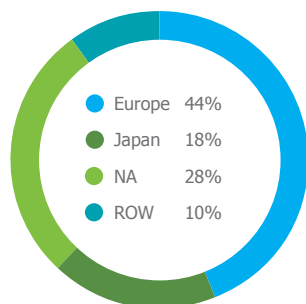
地域別売上構成比

2016年3月期



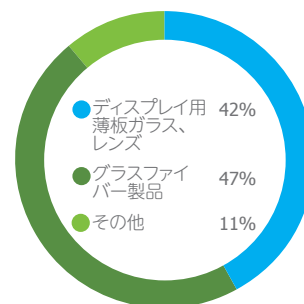
地域別売上構成比

2016年3月期



製品別売上構成比

2016年3月期



主要製品

- 断熱ガラス
- ソーラーコントロールガラス
- 防火ガラス
- 太陽光発電用ガラス
- 防音ガラス
- 安全・防犯ガラス

グループCO₂排出量に占める割合

62%

主要製品

- ソーラーコントロールガラス
- グレージングシステム
- 合わせガラス
- 強化ガラス
- 防犯ガラス
- 軽量ガラス

グループCO₂排出量に占める割合

33%

主要製品

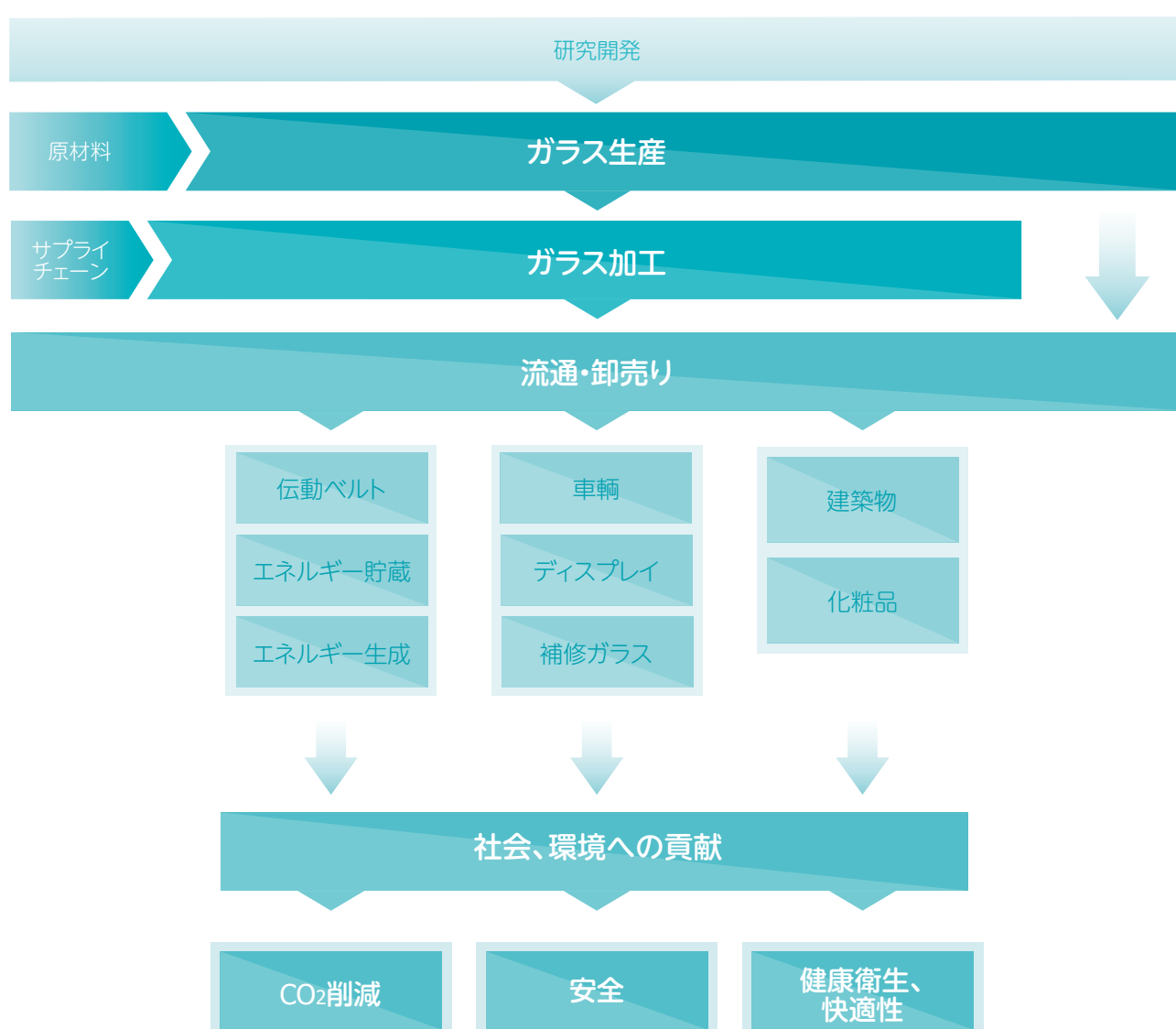
- LCD用薄板ガラス
- コピー/プリンター用レンズ
- グラスコード
- バッテリーセパレーター
- ガラスフレーク
- メタシャイン®

グループCO₂排出量に占める割合

5%

バリューチェーン

NSGグループはサプライヤー企業と協力しながら、当社グループの製造、加工および流通販売活動を通じて、顧客に貢献し全てのステークホルダーが直面するサステナビリティの課題解決を支援する製品とサービスを提供することを目指します。



ガラス製品がもたらす恩恵は一生を通じて享受することができます。不要となったガラス製品は、適切に分別してリサイクルすることで、無限に使い続けることができます。

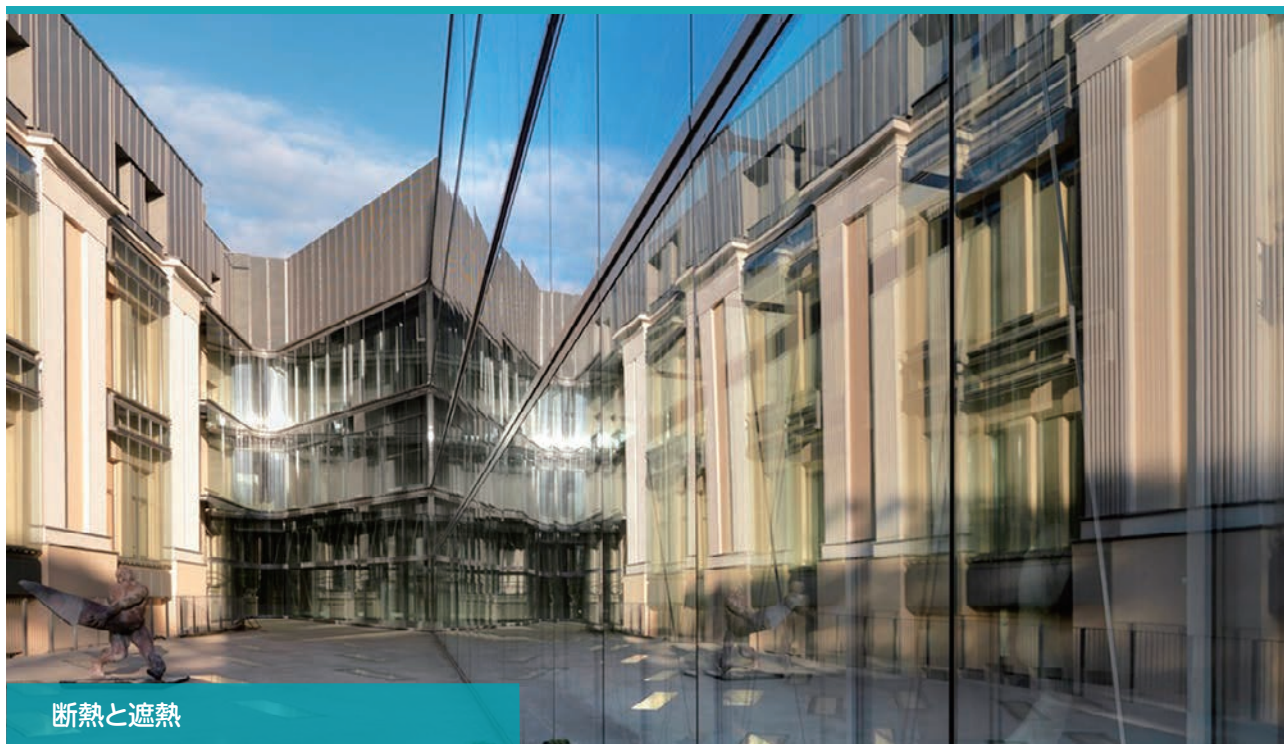
建築用ガラス

NSGグループの建築用ガラスは、現代建築においてきわめて重要な役割を果たしており、建築物を巡る環境面での様々な課題の解決に大きく貢献しています。

先進国では、エネルギー消費の約半分がビルや住宅などの建築物に由来していると言われています。適切なガラス製品を選択することで、初期投資や維持費を節約でき、かつCO₂の排出を削減できます。

オランダTNO応用科学研究機構が行った研究では、欧州内の全ての建築物にソーラーコントロールまたはLow-Eガラスを取り付けた場合、2020年までに年間最大で1億7,000万トンのCO₂排出量削減が可能であると報告されています。

当社のガラス製品は、防火、防音、安全・防犯、エレクトロクロミズム、セルフクリーニング、導電性などのさまざまな先進的機能を提供します。



断熱と遮熱

当社のガラス製品は、グローバルな課題である建物のエネルギー効率改善やCO₂排出削減に取り組む上で極めて重要な役割を果たしています。

低温気候下では、Pilkington Energy Advantage[®]のようなLow-E(低放射)コーティングガラスを使用することで、室内の熱を内部に反射して窓からの熱損失を抑え、採光量を大幅に減らすことなく大量の日射熱(パッシブエネルギー)を室内に取り込んで暖房効果を高めることができます。

高温気候下では、最新ソーラーコントロール用のコーティングガラスを使用すれば、可視光の大部分を透過させつつ、ガラスを通過する日射熱を最大75%まで反射・カットし、眩しさも軽減することができ、その結果、冷房負荷を低減することが可能です。

スペーシア[®]は当社グループが世界で初めて商業生産した真空ガラスです。一枚ガラスと同じ厚さでありながら、従来の複層ガラスと同レベルの断熱性を提供します。スペーシア[®]フールは、熱貫流率が低く(0.9W/m²K)、歴史的建造物や特殊用途に広く用いられています。



防火ガラス

当社グループの防火・耐火ガラスは、30年以上にわたり世界中で高い信頼性を有する透明部材として広く知られています。現在提供しているPilkington Pyrostop®、Pilkington Pyrodur®およびPilkington Pyroclear®は、世界中の様々なビル、海上および陸上輸送用の車両・船舶等に使われています。

当社製品の長年にわたる驚異的な信頼性は、独立機関による様々な防耐火ガラス組込製品のテスト結果が証明しています。Pilkington Pyrostop®とPilkington Pyrodur®は、国際基準であるENとULに基づき環境製品宣言 (EPD) 適合を認定されました。



太陽光発電用ガラス

太陽光発電パネルは、その製品ライフサイクル全体を通して、製造時に使用されたエネルギー量の15倍を超える電力を発電することが可能です。NSGのガラスは、大手ソーラーエネルギー会社が製造する薄膜太陽光発電モジュールに不可欠の部材です。NSGグループはガラスコーティングおよび低鉄ガラス組成の技術的リーダーであり、私たちの製品は太陽電池パネルメーカーがさらに効率的なモジュールを製造するのに役立っています。NSGの反射防止コーティングは、太陽エネルギーの透過を最大化するのに役立っており、透明伝導膜 (TCO) 付ガラスのTEC®製品は発電システムの一部に組み込まれています。

自動車用ガラス

当社グループの高性能自動車用ガラスは、私たちが運転する車の安全、燃費および快適性を高めるために使用されています。

NSGグループは、自動車から鉄道車両、トラクターに至るあらゆる市場で顧客と連携し、環境に優しいデザインを採用した新モデルの開発に協力しています。自動車用ガラスは、透明でさえあれば良いというだけでなく、遮音性、堅牢性、軽量化、密閉性、カメラ安全システム、ソーラーコントロールなども配慮した設計が必要になります。当社グループは太陽光発電システムを搭載したルーフガラスも提供しています。このソーラーパネルは自動車への電力供給が可能で、既存電力源への依存が軽減されます。

NSGグループの自動車用ガラス製品は、太陽が発する赤外線を吸収または反射する最新ソーラーコントロール性能を提供します。車内の熱負荷の約30%はフロントガラスから侵入します。車内に侵入する熱エネルギーを抑制すると、自動車のエアコン負荷が減り、燃費が向上し、その結果CO₂排出量が削減されます。紫外線を最大99%カットし車内温度の上昇を防ぐPilkington EZKOOLR®やNSG Angelguard99にフロントガラスを交換することで、自動車の消費エネルギーを削減できます。



先端機能ガラス

車両技術の進化により、乗員乗客や歩行者の保護にとってガラスは欠かせない要素となりつつあります。自動緊急停止システムやHUD（ヘッドアップディスプレイ）で運転者に重要情報を提供するのに使われているカメラには、高度な一体化が求められます。NSGグループはパートナー企業と緊密に協力しつつ道路の安全性を高める活動をリードしていきます。

環境に優しい自動車の重要性は、エネルギー効率の高いモデルに対する消費者のかつてないほどの要求の高まりを背景として、ますます高まっています。車体の軽量化設計は、自動車のCO₂排出削減とエネルギー効率改善に欠かせません。当社グループ独自開発のガラス成形技術により、自動車メーカーは自動車に使用するガラス部材の重量を最大25%削減することが可能となります。



補修用ガラス

自動車のフロントガラスは、搭乗者の安全を守る重要な要素の一つですが、普段は、その重要性はあまり意識されていません。一部が欠けたり、ひびの入ったフロントガラスは、視認性を低下させ、時間の経過につれていずれは自動車の構造物としての一体性を損なうことにもなりかねません。NSGグループの自動車補修用ガラス(AGR: Automotive Glass Replacement)サービスは、世界中の自動車補修用ガラス事業者に対して、新車と同じ品質のガラスに交換することが迅速・確実にできるよう、幅広い品揃えでOEM品質の補修用ガラスを提供しています。



軽量鉄道車両

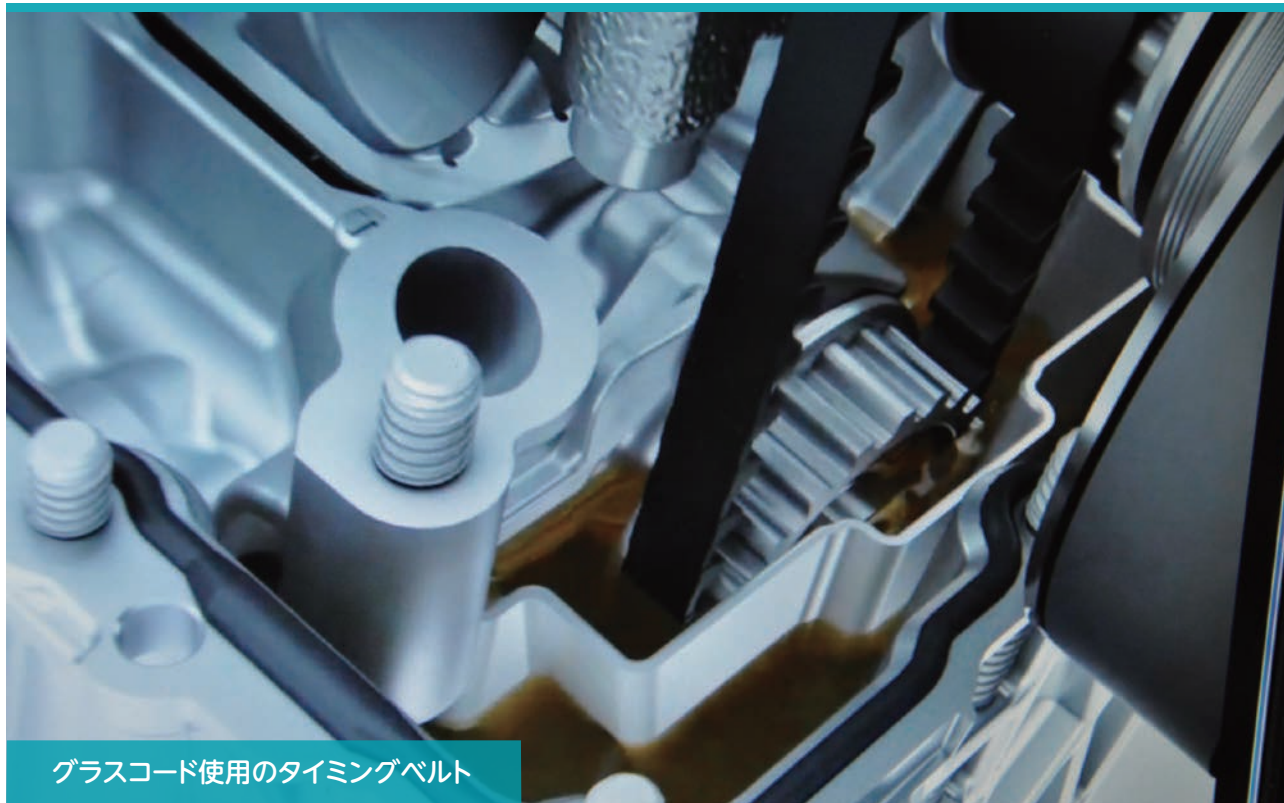
NSGグループはトラック、バス、オフロード車、船舶、軽量鉄道車両等の特殊輸送機材向けグレーディングソリューションのメーカーとして世界をリードしています。幅広い研究開発活動と膨大な成形技術の蓄積により、私たちは世界トップクラスのサイズや複雑性を有するフロントガラスを完成させる力を持っています。

品質と安全性は運転者の命に関わります。鉄道車両のフロントガラスには94口径の空気銃を使った各種国際基準に基づく衝撃試験が求められています。

高機能ガラス

高機能ガラス事業部門の製品は、広範な製品分野で省エネとサステナビリティに貢献しています。

ガラスはハイテク材料として、軽くて、丈夫で、難燃性に優れ、非導電性と耐薬品性を有するため、多くの可能性を秘めています。NSGグループの特許製品は、伝動ベルトに用いることで燃費を改善し、低出力LEDプリンターの部品として小型化や低消費電力化を可能にし、コーティングに用いることでビルや機器の耐久性を高めることができます。当社グループの超薄板ガラス製造における専門性を活かして、次世代型タッチスクリーン機器を開発することが可能です。



グラスコード使用のタイミングベルト

NSGグループが提供する高度なグラスコード技術によって、自動車産業は次世代のエネルギー効率の高い自動車を開発することができます。

この技術は主に自動車エンジンのタイミングベルトや電動パワーステアリング(EPAS)に採用されており、燃費性能の向上とCO₂排出量の削減を可能にしています。

当社グループの高強度(HTS)グラスコードは大幅にベルトの弾性と延伸抵抗を改善します。この先進の技術は革新的な「ベルトインオイル」システムに組み込まれ、エンジンのさらなる高度化を実現しました。このシステムにより、ベルト回転時の静粛性と効率改善が達成され、同時に従来のタイミングチェーンと同様の耐久性も実現しました。さらに、このベルトはエンジンの耐久年数中、使用可能です。



ディスプレイとタッチパネル

NSGグループは、小型LCDディスプレイ用超薄板ガラス(UFF®)の世界トップレベルのサプライヤーです。厚さ0.3~1.1mmの超薄板ガラスを提供することができます。これらの製品は、成長するタッチパネル市場において使用されています。タッチパネルはスマートフォンやタブレット、コンピューターへの搭載が増えており、最近では建築や車載用にも利用が広がっています。このテクノロジーにより周辺機器を追加する必要性が低下し、テクノロジーとのインターフェースがより自然になります。



バッテリーセパレーター

NSGグループは、社会のインフラ整備と環境問題解決に役立つ次世代バッテリーに使用される、バッテリーセパレーター製品の開発で世界をリードしています。ポリエチレン(PE)セパレーターは、自動車バッテリーに使用されており、省燃費、CO2削減要請の高まりから急拡大しているアイドリングストップアンドスタートシステム(ISS)バッテリーに幅広く採用され、その性能向上に貢献しています。AGM(Absorbent Glass Mat)セパレーターは、通信基地局、データセンターなどのバックアップ電源用途の産業用電池で高い信頼を得ており、また近年の環境問題を背景に風力発電などの再生可能エネルギー蓄電用途やISSバッテリー向けのニーズも高まってきております。

当社の開発した極薄ガラスペーパー(SGP; Super Glass Paper)は、極薄(20 μ mまで可能)の無機骨格ガラスペーパーとして、次世代のリチウムイオン電池や電気二重層キャパシタなどの開発を支えています。



モバイル遺伝子検査機

NSGグループが独自に開発したセルフフォーカスアレイ(SLA®)技術は、オフィス機器のスキャナーおよびプリントヘッドに広く使われています。

この技術にさらなる開発を加えて考案されたのが、細菌やウイルス感染または汚染の検出に用いることのできるモバイル遺伝子検査機です。これまで専門施設内に限られていた高精度の遺伝子検査が場所を問わず実施可能となります。また、工場などの食品衛生、環境汚染調査など、幅広い分野での活用が期待されます。

コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンスの充実、NSGグループのサステナビリティ活動の重要な要素です。

私たちは責任ある経営姿勢を明確にうたった事業目標や指針を全てのステークホルダーに開示し、高い透明性を持って、十分な説明責任を果たしてまいります。

「NSGグループ コーポレートガバナンス・ガイドライン」

当社グループは、東京証券取引所の定める「コーポレートガバナンス・コード」(2015年6月1日から適用)の諸原則の考え方を支持し、2015年5月に「NSGグループ コーポレートガバナンス・ガイドライン」を制定しました。本ガイドラインは、当社グループが、持続可能な方法でその企業価値を中長期的に高め、ひいては株主の皆様を初めとする各ステークホルダー各位の共同価値を高めていくための企業統治(コーポレートガバナンス)システムに関する基本的な考え方と枠組みを定めたものです。

本ガイドラインで示す取締役会や指名、監査および報酬の三委員会、独立社外取締役ならびに執行役のそれぞれの役割や構成といったコーポレートガバナンス体制の下、当社グループは、倫理に則り、効果的かつ効率的に迅速果断な意思決定を行うことでステークホルダーとの良好な関係を守りその要求に応えるため、適切なチェックアンドバランスとアカウンタビリティを十分に機能させることを目指します。

さらにコーポレートガバナンスの取り組みの一環として、ガイドラインに合わせ、「株主の皆様との建設的な対話に関する方針」、「取締役候補者の選任基準」、「経営陣幹部の選任方針および手続」を公表しました。ガイドラインと関連方針は以下の当社サイトでご確認ください。<http://www.nsg.co.jp/ja-jp/sustainability/corporategovernance/governancestructure> これらの取り組みは、過去数年に渡る当社グループのコーポレートガバナンス強化活動の成果を反映し、高度なコーポレートガバナンス実現に向けて前進していることを示すものです。

指名委員会等設置会社

当社は指名委員会等設置会社として、取締役会とともに、指名委員会・監査委員会・報酬委員会の三委員会並びに執行役を置いています。

本制度を採用し、執行と監督の分離を促進し、独立社外取締役の役割を強化することにより、経営の透明性を高め、コーポレートガバ

ナンスのレベルを向上させ、ひいては株主価値を向上させるべく努めてきました。

当社は、株主総会の決議によって選任された取締役を構成員とする取締役会によって運営されます。取締役会は、3名の執行役兼務取締役、および4名の独立社外取締役を含む5名の社外取締役から構成されます。現在の取締役会議長は独立社外取締役であるギンター・ツォーン氏です。2016年3月期には、取締役会は計11回開催されました。取締役会は、NSGグループの経済・社会・環境面での業績、ならびに倫理規範、経営理念と行動指針等の社内基準、国際的に合意された基準の遵守状況等について監督を行います。

指名委員会は、株主総会に提出する、取締役の選任および解任に関する議案の内容を決定し、執行役候補者に係る推薦・助言をします。同委員会は、4名の独立社外取締役を含む取締役5名で構成され、独立社外取締役である松崎正年氏が委員長を務めます。

監査委員会は、4名の独立社外取締役で構成され、独立社外取締役である山崎敏邦氏が委員長を務めます。取締役および執行役による職務の執行状況を監査し、適切なリスク管理プロセスの整備・運用の徹底を図ります。さらに、株主総会に提出する会計監査人の選任および解任に関する議案の内容を決定します。

報酬委員会は、取締役および執行役の報酬等の決定に関する方針、並びに取締役および執行役の個人別の報酬内容を決定します。同委員会は4名の独立社外取締役を含む取締役5名で構成され、独立社外取締役である木本泰行氏が委員長を務めます。

リスクマネジメント

グローバルに事業を展開するNSGグループの事業活動は、多種多様な潜在的リスクをはらんでいます。そのため有効なリスク管理が不可欠です。リスクには、金利の変動、外国為替相場の変動、信用格付け、エネルギー価格の変動、事業中断リスクなどが含まれます。重要リスクを抽出し、それぞれのリスクの発生可能性とリスクが顕在化した際の影響度について、標準フォーマットを用いて評価を行っています。この情報を活用して、グループ全体のリスクを把握し、有効なグローバルリスク対策を進め、リスクマネジメント体制の強化を図っています。

当社は2017年3月24日に開催された臨時株主総会において新たに1名の社外取締役を選任し、同社外取締役は同年4月1日より就任しております。同氏は独立役員には該当しない社外取締役であり、これにより、2017年4月1日より、当社の取締役会は5名の社外取締役(内4名が独立役員)及び3名の執行役を兼務する取締役から構成されています。

当社は、この新たな選任に関連し、指名委員会、報酬委員会及び監査委員会のいずれの委員会においても、現在の委員構成を変更する予定はありません。当社は、指名委員会等設置会社として、適切なチェック・バランスと説明責任体制を継続して確保して参ります。

倫理規範

倫理規範は真摯な行動で仕事に取り組むことを約束するものです。

倫理・コンプライアンス

「NSGグループ倫理規範」は、2015年に改定され、よりグループの実情に即した内容に生まれ変わりました。グループ内で用いられている全19言語に翻訳されています。各地域では厳選された倫理担当者が、準備ワークショップに参加した後、倫理規範に関する現地での重要連絡や推進活動に携わる他、現場マネージャーが倫理規範をよく理解し、様々な倫理面の話題についての議論をリードできるようサポートしています。各現場マネージャーは、新倫理規範の理解を深め、従業員と一緒に問題や倫理的行動について考えていく責任を負っています。倫理的ジレンマに関する議論が熱心に行われ、多くの問題点が指摘されています。

アラン・グラハムが、引き続きグループのチーフ倫理・コンプライアンスオフィサーとして、当社グループの総合的な倫理・コンプライアンス制度の策定、実施および維持管理と、この分野におけるポリシーおよびプロシージャの作成および見直しの責任を負っています。グループの倫理・コンプライアンス部門は、定期的に監査委員会および経営会議に報告します。

NSGグループは2015年に腐敗認識指数50以上だった国の36%と取引があり、20%に営業代理店を置いています。当社グループは第三者デューデリジェンス制度により、一定のリスク分類に該当する2000以上の第三者を監視しています。新しい取引先に関する通知プロセスを購買部門と共同で構築しました。NSGグループでは、贈収賄、汚職、および競争法違反に関連するリスクに直面する従業員を特定するために、継続的にリスクベースの評価を行っています。当社グループの全従業員（工場の現場作業従事者を除く）のうち65%以上に、NSGグループ倫理コンプライアンス教育センター（イントラネット上のオンライン研修サイト）で年1回の贈収賄・汚職防止（Anti-Bribery Anti-Corruption: ABAC）、競争法遵守および倫理違反通報に関する（外部ベンダーによる）研修を受けるよう義務付けています。2016年3月期には懸念事項報告と不正に関する研修も追加になりました。受講者は全員、研修終了時にコンプライアンス・プログラムのポリシー、マニュアル、プロシージャの内容を十分に理解していなければなりません。各事業部門および各グループファンクションにはコンプライアンス窓口が設置され、窓口の担当者は、キーロールに認定された従業員にコンプライアンス・プログラムの最新情報を提供し、従業員が同プログラムの要件を満たしていることを確認する責任を負っています。グループ倫理・コンプライアンス部門は、倫理コンプライアンス短信を定期発行し、上級マネージャーとキーコンプライアンス担当に送付します。このほかグループ広報チームは短信をグループ内の全言語に翻訳し、連絡用ウェブサイトに掲載します。

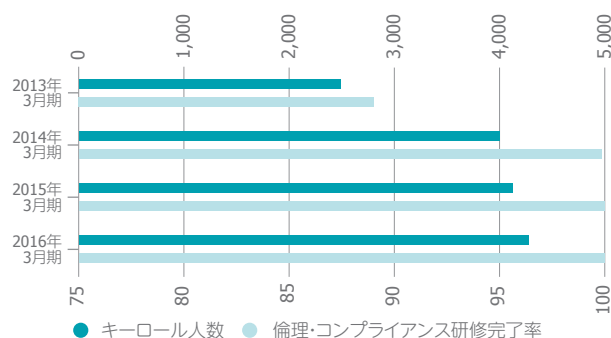
グループの倫理・コンプライアンス部門と監査部の協働によって、ABACおよび競争法遵守を、事業所監査における内部統制評価項目に追加しました。ロビイストとの関係は、第三者との関係であるため

ABACプログラムが適用されます。公共政策の立案段階におけるロビー活動については、NSGグループの「倫理規範」およびNSGグループのウェブサイト (<http://www.nsg.co.jp>) をご覧ください。

当社グループは「懸念事項報告・相談」ポリシーを改定し、各マネージャーが受領した報告を標準報告フォームにより提出させることで、チーフ倫理・コンプライアンスオフィサーが全ての倫理・コンプライアンスに関連する懸念報告に目を通すことができるようにしました。当社グループは、従業員がまず人事部門または現場マネージャーに相談することを推奨する一方、従来通りコーポレートガバナンスに関する懸念を外部団体が提供する倫理・コンプライアンスホットラインを使って通報することも認めています。ウェブポータルや電話からの通報は、法律の許す限り匿名で扱われます。ホットラインはグループ内で使用される全言語に対応しており、従業員は倫理・コンプライアンスについてウェブポータルから質問することも可能です。最新版ポスターを全事業所に配布したほか、懸念事項調査プロシージャを定め、全ての懸念事項が必ず常時適切に調査されるよう配慮しました。

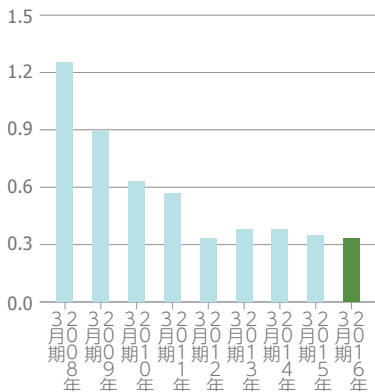
NSGグループは当社グループ営業代理店に対しても「営業代理店コンプライアンス・マニュアル」を配布し、倫理・コンプライアンスホットラインを提供しています。同ホットラインの利用方法は、NSGウェブサイトに掲載し、一般向けにも提供していきます。同ホットライン懸念事項管理システムには、運用開始以来100件の報告が寄せられました。

2016年3月期は、倫理・コンプライアンスホットラインとマネージャーによる報告フォームを通じて43件の報告が寄せられました。

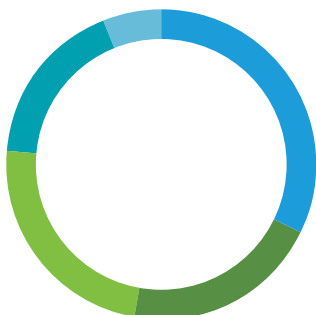


安全・衛生

従業員の重大災害度数率 (SIR)



重大災害の種類



- ガラス取扱い中の切創 11%
- マニュアル作業 7%
- 滑り/躓き/転倒 8%
- エンジニアリング(建設、工事関係) 0%
- 機械作業 6%
- ブレード刃による切創 2%

重大災害	2015年 3月期	2016年 3月期
ガラス取扱い中の切創	17	11
マニュアル作業	13	7
滑り/躓き/転倒	6	8
エンジニアリング (建設、工事関係)	8	0
機械作業	3	6
ブレード刃による切創	4	2

当社グループの安全プログラムは、一人ひとりが責任を持って適切な安全行動を取ることに重点を置いています。マネージャーは当社グループの安全リーダーとして、常に重要な安全行動を取ることを心がけ、模範を示します。

安全組織と戦略

NSGグループのサステナビリティ統括部長は、最高執行責任者(COO)の直属になっています。安全実績の最新データを毎月提供するとともに、半年ごとに4つの事業部門の部門長とグループファンクションの部門長で構成されるシニアオペレーションチームで、より詳細な安全実績のレビューを行います。2016年の安全実績レビュー会議は3月に英国で、9月に北米で開催されました。全ての労働災害は回避可能と考えられます。私たちは、どんなに小さな事故でも全てを報告し、適切な調査を行い、それらの災害から教訓を学んでいます。重大災害率が所定の値を上回る事業所は、特に重点的に追加のサポートや定期レビューの頻度を増やして対応しています。

安全実績

安全性の向上は、災害を招く条件や作業をなくすことに重点を置いたアプローチから始まります。NSGは以下の項目からなるSafety 4 Waysを測定することで先取りの安全対策を推進しています：

安全改善活動(SIP) - 災害につながる条件や作業を計画的に改める活動を通じて、危険有害要因やリスクを減らす。

重大ヒヤリ(IHPS) - 全ての災害を批判的に見つめ直し、一歩間違えば重傷や死亡事故に発展した可能性もあると自問自答して防止策を講じる。

重要安全行動(KSB) - 頻繁なフィードバックを通じて、どのようにしたらリスクのある作業を減らし職務を完了することができるかに重点的に取り組む。

年間重大災害度数率(SIR) - SIRはNSGの主要な安全指標で、治療を受けなければ、または業務を変更しなければ仕事を継続できないような負傷の記録を取る。SIRは200,000労働時間当たりの災害発生比率で表される。

2016年3月期のSIRは0.33で前年比(同一条件下で)6%の改善でした。これは前年比での改善に注力するというグループのMTP目標に合致します。

私たちは、高リスク作業削減プログラムの推進と安全ツールの拡充に真摯に取り組んでいます。

2015年の死亡災害をうけて、全てのSBUで転落の危険がある場所の点検、不必要な業務分野の洗い出し、高所作業が必要な場所でのあらゆる転落防止対策の実施等の改善プランが実行されました。最終的に、従業員が身につける保護具の改善を行い、特に4箇所で固定するヘルメットの着用を義務付けることにしました。

高リスク作業

以下の高リスク作業の安全対策プロジェクトに継続して重点的に取り組めます。

- 車両と歩行者の安全
- 機械安全:ガード、FASS*、アイソレーション
- 請負業者の安全(許可証含む)
- 重量物の運搬:ガラスの移動、安全な積み荷の搬送、吊り用クランプ、台車、パレット
- 運転

*頻繁にアクセスする装置に対するインターロックなどの安全保護策

安全を次の段階に進めるために

安全に関する戦略は従来通り、安全管理ツールとプログラムの有効性改善に焦点を当てています。従業員と監督者は、以下の取り組みを通じてさらに高い水準の安全性を達成できると考えます。

- より一貫性のあるアプローチの推進、安全に関するスキルの育成、教訓の共有促進を目的とした、環境安全衛生部門による安全管理ツール監査の実施。これらの安全監査はその効果を最大化するために、監査対象地域や事業所以外の環境安全衛生部門担当者によって実施されます。
- 安全文化を継続的に変革する手段として従業員の積極的参加の推進。
- グループ全体の安全リーダーシップ水準の向上を目的とした現場監督者の教育。

NSGグループ安全の日

NSGグループ安全の日が2016年10月13日に開催され、今回も世界中で盛況なイベントとなりました。全ての事業所で応急処置、消防、緊急時対応などの従業員参加型の安全活動も開催されました。当日は、各事業所で開催されたイベントに上級マネージャーが出席し、この日に向けた自らの意気込みを示すとともに、優秀な安全実績を上げた個人・チームに対する表彰が行われました。

NSGグループ安全衛生アワード

NSGグループ安全アワードは、優れた安全衛生プロジェクトに取り組んだ個人やチームの功績を広く称えて表彰するものです。リスク軽減に関する優れたアイデアの多くは、従業員から生まれます。審査は、経営陣と安全衛生問題の専門家等によって行われました。



NSGグループ安全衛生アワード受賞者

米国ロスフォード事業所フロートチームの「ドック安全ゲートによるフォークリフトと歩行者分離」プロジェクトが優勝しました。

このプロジェクトは、トラック荷揚げ時の作業員による危険区域への立入を効果的に防止できるようにします。チームメンバー間のコミュニケーションを増やし、結果的にスイングゲートの設置により歩行者とフォークリフトの分離に成功しました。

次の3つの重要点が審査員に評価されました。第1に、このプロジェクトは重要なリスク対応策であること、第2に、実用性に細心の注意が払われていること、第3に、実際に装置を使用する作業員が考案し、テストを実施し、大きく貢献したプロジェクトであることです。



安全衛生アワード表彰

スペインのサグントと米国ナイルズの自動車用ガラス事業所は、「作業現場における安全ビデオを使用した取り組み」により表彰されました。これらは別個のプロジェクトですが、どちらも従業員が率先して重要安全行動(KSB)のビデオを作成しこれを全員で共有したもので、安全文化の醸成に重要な貢献をした点が評価されました。

環境方針

NSGグループは環境に対する責任を真摯にとらえています。事業を行う上で、全ての法的基準を遵守することは企業として最低限守るべき義務であり、それぞれの国や地域の法律や基準では問題の対応に十分ではないと思われる場合は、グループ独自の基準を適用して対応しています。

NSGグループ環境ポリシー

「NSGグループ環境ポリシー」は、環境問題に対するNSGグループのアプローチを定義し、現在の事業活動はもちろん過去の事業活動や買収先など他社から引き継いだ責任を含めた環境管理について定めています。NSGグループはこのポリシーに則り、当社グループの事業がもたらす環境に対するプラスの影響とマイナスの影響を確かな科学的根拠に基づいて予測・評価します。

当社グループは、建物や自動車の省エネ製品を生産することで気候変動の緩和に貢献しています。

ガラス製造業が環境に与える影響を避けることはできないことを認識した上で、環境への負荷をコントロールするシステムを整備し、負荷を最小限に抑えるための対策を講じています。一方、NSGグループの製品を使用することは環境負荷の低減につながります。

NSGグループの環境マネジメントシステムは、その要となるものです。私たちのガラス製造・加工拠点の大部分は環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001認証を取得しています。

私たちは、環境管理の結果いかににかかわりなく、必ず報告を行います。NSGグループが直接的な支配権を持つ製造拠点について、環境実績を観測し報告しています。NSGグループは、各事業所の敷地およびその周辺地域における過去の事業活動に関連したさまざまな問題に関して、世界各国の規制当局と連携を図っていきます。

データ収集

環境・安全実績については、現在オンライン報告システム「Airsweb™」を使用して、グループ全体でデータを収集しています。このデータベースは多言語に対応し、NSGグループの全ての事業所が社内イントラネット経由でアクセスして関連情報を毎月更新できるようになっています。

環境関連のデータは、エネルギー、大気中への排出量、水使用量、リサイクル、廃棄物などの項目ごとに集められます。これらの項目は、GRI（グローバル・レポート・イニシアティブ）ガイドラインの環境パフォーマンスの中核指標を参考にしています。

Airsweb™システムは、排出量や資源使用量のデータ収集システムであると同時に、災害報告システムとしての機能も兼ね備えています。この機能により、安全と環境に関する災害情報をタイムリーに報告・記録することができます。また、災害対応の進捗状況や是正状況を追跡できるほか、災害事例から学ぶべき事項を共有することができます。

環境データのモニタリング

NSGグループは、定期的な業務モニタリングに加え、数々のデータベースを一元的に管理し、サステナビリティ分野における戦略の策定や高度なコーポレートガバナンスの維持にこれらのデータを活用しています。例えば、全ての溶解炉について、最新版の許可証や関係法令、環境負荷軽減能力のデータを保管し、業務上や設計上の変更が提案された際の評価に活用しています。

NSGグループは、革新的な取り組みを一貫性を持って実現するために、多分野にまたがる委員会を多数運営し、さまざまな変更案に対して評価・検討を行っています。ステージゲートプロセスを活用して、プロジェクトの開発や提案の各段階で適切な情報とリソースが割り振られるようにしています。これにより、経営リソースの最も効率的な利用とイノベーションの促進を図っています。

ガラス溶解工程を有する工場に関しては、環境負荷の軽減に対する戦略的アプローチを明確にし、法規制が未整備である地域も含め世界中でグループ方針の遵守を徹底しています。

認証

NSGグループは、全ての製造施設においてISO14001を取得することを目指しています。現在世界中で81拠点が認証を取得しており、これは売上ベースで事業全体の70%に相当します。

当社グループの自動車用ガラス事業部門は自動車業界内でいち早く環境マネジメントの企業認証を取得しました。第三者試験認証機関TÜV SÜD マネジメントサービス社により与えられた単独のDIN EN ISO 14001認証により、グループファンクションと世界各地の自動車用ガラス事業部門の事業所の大部分がカバーされます。

フィンランドのタンペレとウロヤルヴィの工場は、2015年10月に自動車ガラス加工工程のエネルギー管理システムに対して国際規格であるISO 50001認証を与えられました。これはすでに認証を取得しているガラス溶解・加工工程を有するドイツとイタリアの工場に続くものです。

環境製品宣言 (EPD)

環境製品宣言 (EPD: Environmental Product Declaration) は、製品のライフサイクルを通じた環境への影響に関する情報を提供するタイプⅢ環境ラベルの認証プログラムです。

ドイツのInstitute of Building and Environment (IBU) は、ISO 14025およびEN 15804に従い、Pilkington Profilit®と防火ガラスのPilkington Pyrostop®およびPyrodur®にEPD認証を与えました。また、建築士や建築プランナーは、建物の詳細なサステナビリティ評価を行うために、スウェーデン環境管理評議会のウェブサイトであるEcoprofileから信頼性の高い環境情報を入手できます。

ドイツの現地法人は、Profilit®と2種類の防火ガラス製品 (1枚ガラスと合わせガラスの両方) にIBUロゴを付ける認可を受けています。この宣言はIBUのリストに掲載されており、請求すれば取り寄せられます。

NSG環境アワード2016

NSGは、優れた環境プロジェクトに取り組み、当社グループのポリシー目標を達成した個人やチームの功績を広く称えて表彰します。優秀なアイデアは、多くの場合従業員による取り組みの中から生まれるものであることは認められています。今年環境アワードは、原料の消費を最小限に抑え、廃棄物を再利用可能な原料に変えるための革新的な方法を見つけたチームに贈られました。

EcoVadisのCSR (社会的責任) 評価

EcoVadisは独立した外部プラットフォームを運営し、各企業によるグローバルな環境的・社会的パフォーマンスの自己評価やベンチマーク比較をサポートしています。

そのプロセスにおいて、環境、労働慣行および人権、公正な商慣行ならびに持続可能な調達問題に関する企業のポリシー内容、実施されたプロシージャー、および刊行された報告書を評価します。この評価は、150の産業分類と21のCSR基準を網羅するスコアカードを使って、国、業種、および規模の違いに合わせて柔軟に調整されたアンケート調査に基づき、EcoVadisのCSR専門家によって実施されます。格付けは、裏づけ資料、公的情報、ステークホルダー (NGO、労働組合、マスコミ) 情報に基づいて決められます。



NSG環境アワード2016受賞者

NSGグループ環境アワード2016の受賞者は、研究開発部レイザム化学分析チームの支援を受けたイタリアサンサルポ事業所フロートチームです。SS1フロートプロジェクトでは、廃ガス処理プラントからのセレン含有粉塵回収に成功しました。

受賞プロジェクトは、静電集塵装置からフロート工程に至る間のセレン含有粉塵回収を可能にしました。今や粉塵はガラスの色や品質に悪影響を及ぼすことなく「プライバシーガラス」製造工程に安全にリサイクルされ、この結果有害廃棄物としてこの粉塵を処理する必要がなくなり、原材料の使用量も削減することができるようになりました。



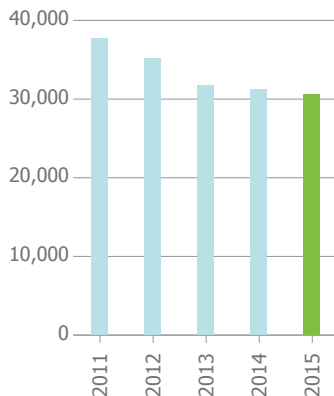
EcoVadisのCSR (社会的責任) 評価

NSGグループは、EcoVadisによる評価に基づいてグループのCSRパフォーマンスの全体像を把握し、改善すべき分野を明らかにしました。NSGグループのCSRマネジメントに対する取り組みは、EcoVadisによる評価でシルバーを獲得しました。

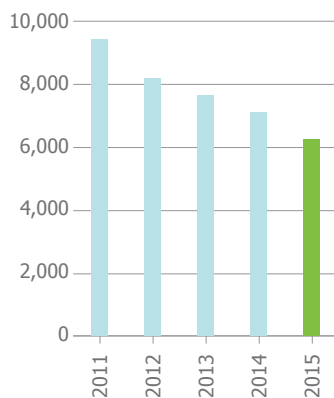
エネルギー使用

エネルギー使用量

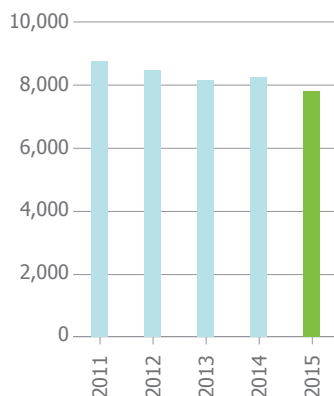
単位:TJ(テラジュール)
天然ガス



重油



電力



NSGグループは、ガラスの使用を通して最終的にはサステナビリティにプラスの効果をもたらすよう、全ての工程におけるエネルギー投入量を最小限に抑えることを目指し、継続的に取り組んでいます。

NSGグループのエネルギー使用

環境とコストに配慮し、ガラス溶解用の燃料に可能な限り天然ガスを使用するようにしています。溶解炉は徐々に重油からガスに転換されており、暖房設備とバックアップ用発電機に、少量のディーゼルとLPGが使用されています。消費の詳細は、グラフをご覧ください。

エネルギー利用料削減の取り組み

エネルギー委員会

全ての取り組みは、半年に一回COOを議長として開催されるエネルギー委員会で、各SBUおよびグループファンクション長により確認されます。

エネルギー管理パイロットプラント

エネルギーパイロットプラントとは、エネルギー効率および効果を高めることでエネルギー費用を大幅に削減するための新しい考え方です。フェーズ1の取り組みとして4つのパイロットプラントが2013年3月期にスタートし、続いてフェーズ2の取り組みとして2015年3月期と2016年3月期に7つのパイロットプラントがスタートしました。更に今年は、日本、ベトナム、ブラジルで5つの新パイロットプラントが運用開始しました。これら16のパイロットプラントのエネルギー支出合計は、NSGグループ全体の66%に達します。

これらのパイロットプラントでは、工場長のリーダーシップの下、様々な分野のメンバーからなるチームがグループファンクションの積極的なサポートを受けながら活動しており、外部サプライヤーもフルに活用しています。全部で300件以上のプロジェクトが検討または進行中です。

操業エネルギー効率化プロジェクト

オペレーションコスト削減(OCS)プログラムは、直接費用および間接費用も含めたあらゆる事業経費の削減を目指すものです。グループの主要な直接費の一つはエネルギー費用です。全事業所のコスト削減活動をサポートするため、OCSデータベース内のエネルギーに関するプロジェクトが定期的に詳細に分析されます。その中から他事業所でもエネルギー消費量削減および費用節約に貢献しそうな多数のプロジェクトが特定され、迅速に実施されます。2016年3月期はグループ内全製造事業所で、少なくとも1つのOCSエネルギープロジェクトが実施されました。

製造事業革新部が主体となり、他のグループファンクションの支援も得て、100件以上のエネルギー最適化の取り組みが実施され、1年で30,000トンを超えるCO₂削減を達成しました。

大規模プロジェクトとしては、溶解炉の燃料燃焼最適化、モーターの電力必要量削減、圧縮空気系統の最適化、エネルギーサブメーター、高エネルギー効率の照明、使用燃料の変更、コージェネレーション(熱伝供給)プロセス、廃熱およびエネルギー回収等に関するものがあります。

プロジェクト開発、エネルギー浪費の特定および光熱費管理にはメーターが使用されています。メーターの設置状況調査を2016年度に完了しました。第三者資金提供プロジェクトの一環として新しいメーターを設置し、既存ソフトウェアの利用拡大により基本測定機能を強化しました。

現在ガラス業界向けの潜在新技術ディレクトリが作成されているところであり、グループ各事業所で使用するのに適したアプリケーションが推奨されています。

パイロットプラントで生まれたアイデアをグループ全体に普及させ、より広範にその恩恵を受けられるようにする役目を果たすのが、Sharepoint(グループイントラネット)のディスカッションボードと直接参加型のエネルギーワークショップです(2014年11月イタリア、2015年5

月ヴァイハマーで開催)。2016年10月の溶解工程研修コースで開催されたワークショップには、14カ国から45名の参加者が集まり、省エネ技術と活動に関する様々なアイデアを出し合って、省エネ意識の浸透を図りました。いくつかの新しいアプローチも発見されました。

エネルギー管理システムの導入

ドイツ、イタリアおよびフィンランドのガラス溶解工程を有する全ての工場、および最近では自動車エンジニアリングがエネルギー管理の国際規格であるISO 50001認証を取得しました。サブメーター（ハードウェアおよびソフトウェア）の導入により、エネルギー消費に関する高い透明性が確保され、改善活動や目標の設定および頻繁な見直しを盛り込んだ高度なエネルギー計画の立案が可能になりました。

事業所内での再生可能エネルギーの生成と代替燃料

重油の代わりに廃棄物を原料としたバイオ燃料をガラス溶解炉で使うことで、年間8,000トンのCO₂の排出を削減しています。

米オハイオ州のロスフォード事業所の研究開発センターでは、敷地内に太陽光パネルを設置し、センターの年間電力使用量の約7%を賄っています。ドイツのヴァイハマー事業所でも、事業所の屋根と駐車場跡地に太陽光パネルを設置しました。

サプライヤーと連携した省エネプロジェクト

主要サプライヤーと協力して、製造拠点のエネルギー消費量を削減するプロジェクトを立ち上げ進めています。各技術分野のトップ企業との密接な協力体制を通して、個々のエネルギー管理問題に最適な解決策を実行しています。また、高効率コンプレッサーへの切り替えによる省エネ、フロートガラス製造工程で発生する廃熱の再利用、電力消費のピーク時間帯を避けた節電など、サプライヤーと協力してさまざまな省エネプロジェクトを進めています。

カレットのリサイクル革命

当社グループのワトソンストリート事業所では、顧客企業へのガラス納入に用いる「フロートライナー」と呼ばれる専用車に載せて使うプラスチック容器への投資を継続しています。戻ってきた顧客企業のカレットを再度溶解して利用することで、エネルギー消費量と原材料の分解を削減、年間3,000トンのCO₂排出を削減できました。

従業員の意識向上

グループの全事業所で、従業員の全般的な省エネ意識向上のためのプログラムが進行中です。生産工程のエネルギー効率大幅改善を目指し、製造部門チームが多数参加しており、省エネプロジェクトのグループデータベースも作成しています。

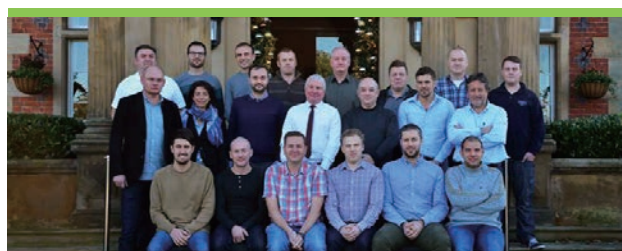
2016年11月にエネルギー専門家養成研修を実施しました。外部団体主催の5日間にわたるセミナーで、全事業部門から欧州の従業員19人が参加しました。その内容はエネルギー管理の多くの側面を網羅し、フロート工場監査も含まれていました。セミナー修了認定を受けるには試験に合格しなければならず、また参加者は自分の事業所のエネルギー監査結果とエネルギー管理プロジェクトのアクションプランを、セミナー終了後3ヶ月以内に提出するよう求められました。



アーヘン工場がドイツエネルギー効率賞を受賞

ドイツエネルギー機構(Dena)は、ベルリンで開催された年次総会で、高名な審査員を迎えてドイツ国内でも優れたエネルギー効率プロジェクトを3件選び、表彰しました。

このうち、NSGグループのアーヘン自動車用ガラス工場の省エネプロジェクトが2位に輝きました。このプロジェクトは、エネルギー消費測定によって建物および生産活動における省エネを目指すもので、エネルギー集約的な自動車用ガラス生産工程と工場の建物の双方に関して、エネルギー生産者側と利用者側を結びつけて最適化するという全体的なアプローチがとられている点がユニークです。エネルギーのデジタル管理システムを一貫して使用することで、節約の度合いを検証することができ、さらなる最適化の可能性について情報が得られます。2位の受賞者に与えられる10,000ユーロの賞金は、スマートメーターシステムの改善に使われる予定です。



エネルギー管理専門家養成セミナー

2016年11月に実施された専門家養成セミナーの結果、参加者は製造革新部の支援を受け、以下のようなエネルギー管理の機会と可能性を特定しました。

- 58の新規プロジェクト
- 3GWh以上の省エネの可能性
- 約1,700トンのCO₂排出量削減

大気への排出



舞鶴一
大気汚染防止施設

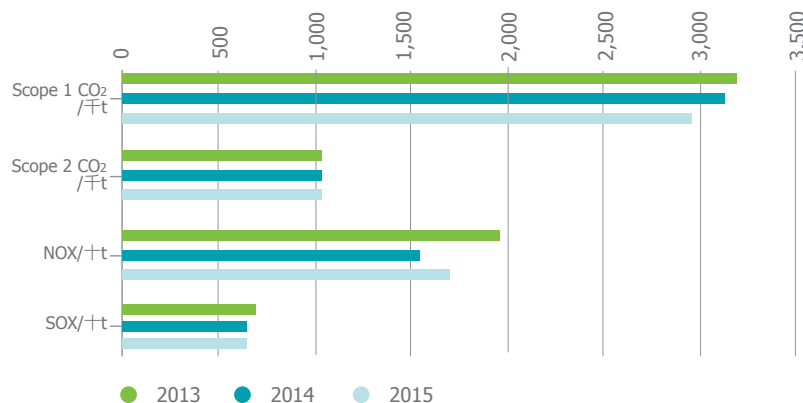
NSG舞鶴事業所の溶解炉には汚染防止設備が設置されています。中央に粉塵除去のための電気集塵装置、その左側に酸性ガススクラバー、右側に煙突が配置されています。

ガラス製造はその工程で原料を高温で溶解し、大量のエネルギーを消費します。この工程で発生する大気への主な排出物は、燃料の燃焼による生成物と原料(ソーダ灰、苦灰石(ドロマイト)、石灰石)の分解により発生するCO₂です。

大気への排出

ガラス溶解炉は様々な汚染物質を排出します。主要な排出物としては、清澄剤や重油燃料に含まれる混入物から出る硫酸化物、高温の燃焼工程における燃焼空気により生成される窒素酸化物、溶融工程から排出される粒子状物質ならびに原材料の分解および燃料の燃焼の両方から排出されるCO₂があります。私たちは、多様な一次的、二次的制御技術を用いてこれらの排出物削減に努めています。一次的方法とは、汚染物質の生成をその源で削減するための方法であり、排出につながる原材料や重油の代替技術、特別な燃焼装置の使用、溶解炉のエネルギー効率化等がこれに当たります。

生産コストの削減にもつながるため特に注目を集めているのが後者の二次的制御法で、溶解炉の排気ガスが煙突から排出される前に煙の中から有害物質を除去する処理装置を用います。酸性ガススクラバー、電気集塵装置、高性能排煙脱硫設備は最近利用が拡大しており、世界中の事業所で導入が進んでいます。



CO₂排出のモニタリングと削減

2015年にNSGグループでは、400万トンのCO₂を排出しました(直接排出と間接排出の合計)。これは前年比1.6%の削減で、操業コスト削減のための多くの将来を見据えた積極的対策(24、25ページ参照)により達成されました。グループのスコープ1 排出量は300万トンでした。このような直接排出は、ガラス溶解炉から排出されるCO₂と自動車用ガラス事業と建築用ガラス事業の曲げ・強化炉で使用される燃料から排出されるCO₂を合わせたものです。2015年に測定されたスコープ2のCO₂排出量は100万トン、スコープ3排出量は推定90万トンでした。当社グループでは、フロート溶解炉燃料の重油から天然ガスへの切り替えが進んだことにより、この40年間でCO₂排出量をほぼ半減することができました。設計・運用上の技術革新により、さらに削減が進んでいます。私たちは、製品1トン当たりCO₂排出量を2020年まで毎年1%ずつ削減することを目指します。この目標はこれまでの3年間毎年達成されています。現在、中長期の削減目標について、検討を行なっています。

カレット利用で燃費効率向上と排出削減

リサイクルガラスは貴重な資源です。許容範囲の品質であれば、切り落としたガラスやカレットは全てガラス溶解ラインに戻してリサイクルしています。川下加工拠点や顧客企業から回収したガラスは、私たちにとっては有益な資源です。カレットの利用には二重のメリットがあります。ガラス製造に必要な原材料を削減できることに加え、廃材になるはずのものを廃棄せずに済み、ほぼ完全なリサイクル・ループを実現しています。原材料の10%にカレットを利用すると溶解炉のエネルギーを3%節減でき、その結果CO₂排出量の削減につながります。先頃、当社グループの事業所で原料が100%カレットのガラスを製造しました。省資源化のため、世界各国で継続してガラスカレットの回収・リサイクルを推進しています。

埋立て処理は最後の手段です。グループ内の工場で再溶解できないガラスは、可能な限り外部業者にリサイクル処理を依頼しています。

欧州の建築用ガラス事業では軽量特殊トレーラーを導入。1台当たり積載量を増やして便数、走行距離、CO₂排出量を削減しました。

2015年後半から2016年末にかけて、建築用ガラス川上事業部門は欧州の主要サプライヤーと協力して、英国、ポーランド、イタリア、ドイツ、北欧地域に新型軽量トレーラーの「フロートライナー(またはinnenlader)」を導入しました。特定工場間ルートおよび選ばれた顧客への納入で従来より多くのガラスを輸送することができました。ただし、このような大口配送はどこでも受け入れられるわけではありません。

英国では、運送業者がフロートライナーを全て新型軽量車輻に切り替えました。この新型フロートライナーは、2016年の川上事業におけるガラス輸送に非常に大きく貢献しました。

英国川上事業	2015	2016		% 前年比
輸送重量(t)	229,419	335,867	▲	12%
輸送距離(km)	3,408,672	3,460,096	▲	1.5%
平均輸送距離(km)	291	279	▼	4.3%
軽油使用料(l)	1,358,207	1,190,425	▼	14%
CO ₂ 排出量(t)	3640	3178	▼	14%

英国の2016年における川上事業輸送量は前年比で12%増加しましたが、フロートライナーの便数はわずか6%、走行距離はわずか1.5%増加したに過ぎません。CO₂排出量は460トン(14%)も削減されました。

イタリアの事業では、全配送の46%を「インローダー」と呼ばれる新型トレーラーで行い、これにより同量のガラスを輸送するのに必要なトラック台数を124台分、インローダーの走行距離10万キロメートル(4.4%)、CO₂排出量140トン、特殊フリート(保有トレーラー全体)の4.4%、ガラス輸送活動全体のほぼ3%近くを削減しました。

ドイツの運送業者は新型軽量トレーラー「innenlader」を段階的に導入しており、2016年末までにCO₂排出量を130トン削減することができました。全積載物の10%以上がこの新型軽量トラックで輸送されました。またポーランドの運送業者は、輸入ガラスを軽量トラック1台当たり5.2%増で川下事業所に輸送することで必要なトラック満載台数を減らし、2016年はCO₂排出量を34トン(5.2%)削減しました。



輸送および倉庫保管

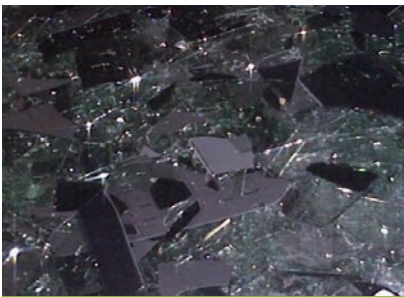
輸送および倉庫保管は、NSGグループのグローバルな事業展開における調達費用の16%を占めています。私たちは、お客様に満足していただける製品の提供はもとより、グループの工場や顧客に対して、選ばれたサプライヤーから安全かつ納期通りにサービスを提供することに重点を置いています。さらに、効率性を高め、空荷での走行距離を減らし、運搬総重量を増加させることも重視しています。これらの取り組みは、大気中のCO₂排出量を削減することにより環境への影響を改善することにもなります。

廃棄物の削減



英国のPilkington Architectural (PA)社は、2016年のNSGグループ環境アワードでガラス研磨汚泥の再利用が認められ表彰されました。

PA、研究開発部、ワトソンストリート事業所間の強固なチームワークにより、PA社の操業で排出されたガラス研磨汚泥の再溶解が可能になりました。これにより一方では廃棄物処分を無くし、他方では同量の未使用原材料消費を削減することができます。

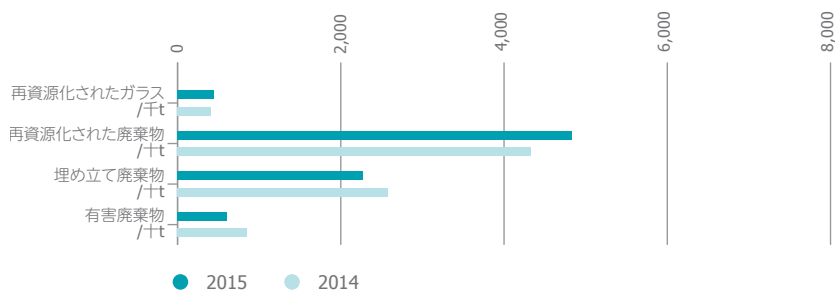


もう一つの受賞プロジェクトは、英国の研究開発フロートおよび型板ガラステクノロジーによるプリントセラミック付きカレットのリサイクル活動で、イタリアサンサルボ工場の支援を受けました。セラミック印刷ガラスカレットのリサイクルを外部に委託するのではなく、自社フロート工場内でできるようにした点で重要な意味を持ちます。

このプロジェクトでは、印刷カレットを限定的に加えて色の変化を最小限に抑えることで、より暗い色調のガラス製造に再利用できるようにしました。

NSGグループは、ガラスおよび製造、加工、梱包および配送に用いられるその他の材量の効率的な使用、再利用、回収、リサイクルを推進しています。

NSGグループの廃棄物



リサイクルと廃棄物の構成

ガラス製造工程そのものは非常に少量の廃棄物しか出しません。切断したガラスの端材は全て再度溶解されてリサイクルされます。PVBは、主に自動車のフロントガラス用の合わせガラスの中間膜として使用されます。合わせガラスの端から裁断されるPVBは、PVBサプライヤーに戻され、製造工程でリサイクルされます。残りの埋め立て廃棄分は、主に廃棄されたガラス、規格外原材料、一般廃棄物、ガラス研磨汚泥等からなります。NSGグループは2007年以降今日までに、埋め立て廃棄分を半分に減らすことに成功しました。そしてさらに2018年3月期までに2013年比で20%削減するという新しいサステナビリティ目標を設定しました。(8ページ参照)



ガラス研磨汚泥

私たちは積極的にリサイクルのパートナーを見つけ、廃棄物を埋立て処理するのではなく、コンクリート製品その他の骨材製造業者に原材料として提供してきました。

フロートガラス規格外の原材料

2016年私たちは、引き続き汚染物質処理設備によって収集されたガラス粉塵および規格外のためしばしば配合不可となる原材料の削減やリサイクルのための新しい方法を模索しました。ロスフォード事業所では規格外原材料を減らす対策として、工程モニタリングおよび制御システム自動化が進められました。またオタワ事業所では、バッチ漏出を減らすための新しいバッチ工場が建設されています。

廃棄ガラス

大量の廃棄ガラスを排出している事業所は、カレットの分別およびリサイクル方法を見直し、フロート工場での再利用拡大その他のリサイクル改善策を検討しています。その一つマレーシアのスンガイブロー事業所では、印刷カレットを全て再利用しており、合わせ廃棄ガラスに関しては再利用のためのパートナーを見つけました。全事業所で、汚染カレットおよびガラス粉塵のリサイクル方法が再検討されています。

一般廃棄物

大規模な事業所に対しては、一般廃棄物の分別をさらに徹底できるよう集中的サポート体制がとられており、グループ購買部門がパートナーとなり得る地元リサイクル業者の選択に積極的に関わっています。

自動車ガラス材料

自動車用ガラスについては、調達した全ての原材料データを世界規模の自動車産業向け環境負荷物質情報システムIMDS (International Material Data System) に登録しています。これにより、原材料の成分が一目でわかり、使用材料のコンプライアンス、リサイクルの可能性などを確認することができます。このデータは、顧客企業である自動車メーカーも閲覧可能で、顧客企業による使用材料のコンプライアンス、リサイクルへの取り組みにも役立っています。

PVBは、主に自動車のフロントガラス用合わせガラスの中間膜として使用されます。合わせガラスの端で裁断されるPVBは、PVBサプライヤーに戻され製造工程でリサイクルされます。2016年には約2,000トンのPVBがサプライヤーやリサイクル業者により回収され、再利用されました。

水

ガラス製造において水は徐冷工程で使用されますが、ほとんどの工場は水循環システムで稼動しており、補充のみ必要になります。また、工場内でガラスを洗浄する際にも水が使用されますが、ここでは純度の高い水が必要となるため浄化処理後の水を再利用しています。産業排水の処理業者と協力し排水のリサイクルを実施するとともに、最新の水処理施設を導入して水の使用量を最小限に抑えるよう努めています。これは、水の使用量が減るだけでなく、水処理に使用される化学物質の使用量を削減する効果もあります。

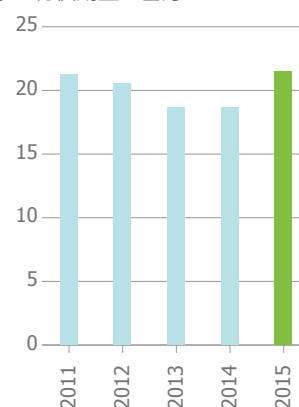
グループ内でも、工程または製品の違いや水質の違いにより、水の使用量は大きく異なります。通常はフロートガラスの製造1トン当たり最大2m³の水が必要となり、自動車用ガラス製品の加工1m³当たり最大90ℓの水が必要となります。2016年の水総使用量は、2,090万m³でした。グループのリスク評価によれば、グループ内の主要な水消費事業所は、水供給問題のない国々にあります。

木材

欧州では多くの場合、ガラスは梱包されずに「フロートライナー」と呼ばれる専用車で輸送されます。この車では大型ガラスをスチール製の台に乗せ輸送しますが、製品を梱包する必要はありません。欧州以外では、ほとんどの場合、ガラスを木製の箱で輸送しており、サプライヤーと協力して再利用可能な木製梱包材の設計に取り組んでいます。これらの木箱に使用する木材の多くは持続可能な森林で調達されています。

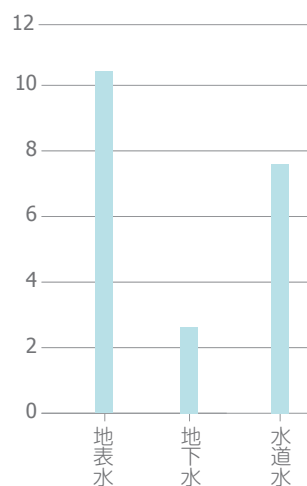
NSGグループの水利用

水の総使用量 百万m³



NSGで使用される水の供給源 (2015年)

百万m³



顧客

私たちは、ガラスおよびガラス関連サービスで最も取引したいサプライヤーとなることを目指します。

最高の安全品質とサービス水準は、顧客企業やエンドユーザーとの関係を構築する上で最も重要な要素です。

顧客第一主義

VAガラスカンパニーにとって、顧客の立場に立ち、顧客の必要とする解決策を提案することは不可欠です。NSGグループでは営業マネジメントチームを対象に、変化する市場ニーズに柔軟に対応できるようにするためのツールとスキルを身につけるリーダー研修プログラムを実施しています。

建築用ガラスの北米チームが進めている「顧客第一」アプローチは、単に当社グループの製品およびサービスの品質を改善するだけでは終わりません。彼らが目指すのは顧客を完全に満足させることであり、それは個々の顧客にとっての「優れた製品・サービス」とは何かを明確にすることによって初めて可能になります。組織の全員が一丸となって、顧客が製品またはサービスを購入する前から、その購入の最中も、そして購入後も一貫して満足が行く経験ができるよう解決策を提供します。

製品に対する責任

当社は、顧客企業が当社製品を安全に取り扱い、施工、使用できるよう、製品使用時の安全確保についても万全を期しています。私たちは、社会、環境および安全面で高い効果を発揮する製品やサービスをお客様に提供することを目指しています。当社グループが行っているトレーニングやサポートは、顧客企業がリスクを軽減したり、サステナビリティに対する課題認識を高めるのに役立っています。当社グループは、顧客企業が当社製品を安全に取り扱い、施工、使用できる

よう、製品使用時の安全確保についても万全を期しています。その中には、作業者の安全に配慮し、かつ品質や強度を損なわない自動車フロントガラスの正しい取り付け方も含まれています。

最高品質

品質は、顧客企業やエンドユーザーとの良好な関係を構築する上で鍵を握る要素です。また、高品質化はサプライチェーン全体の無駄を省き生産効率が向上することから、サステナビリティを推進する上でも極めて重要な要素となります。ここで品質とは、設計、開発、製造、納品、組立、ガラスの価格、カスタマーサポートまでを含みます。NSGグループは、厳格な品質管理システムおよび品質管理基準により高品質の実現を支えています。建築用ガラス事業では、欧州、日本、北米、南米で品質管理の国際規格であるISO 9000:2000認証を取得しています。欧州の建築用ガラス事業部門は、欧州における建築用ガラス製品の基準策定に中心的な役割を果たしています。これらの基準は、ガラスメーカーがEU建築物指令に準拠した製品を作るために設けられたもので、NSGグループの建築用ガラス製品のほぼ全品が対象になっています。

製品開発

NSGグループは、自動車の総合効率を向上させる次世代型自動車用ガラスを開発するために、顧客企業と緊密に協力しています。車両の軽量化は常に効率性にプラスの影響を与えますが、騒音、剛性、コスト等、車両設計のその他領域で妥協を余儀なくされる可能性もあります。新技術を車両設計に導入するには、顧客との緊密な技術協力が必要です。車両は多様なエンドユーザーのニーズに合わせて設計されるため、複数のソリューションが必要とされることがよくあります。軽量グレー징ングの場合、ガラスの厚さ、組成、最終製品を製造するために使用される化学強化および成形プロセスについて検討する技術戦略が多数策定されます。これにより、グレー징ングの設計をターゲット市場の期待に合わせるすることができます。

このような顧客企業との密接な関係の最近の一例として、Pilkington Brasilは南米ホンダから新型「シビック」の開発・発売支援に向けた協力を評価されました。



プロダクトイノベーション

NSGグループは、「ものづくり」とイノベーションにおける世界のリーディングカンパニーです。とりわけ、ガラス溶解、フロート製法によるガラス形成、オンラインコーティング、自動車用フロントガラスやリアガラスなどに用いられる複雑形状形成技術においては、業界トップレベルの優れた技術力を持っています。2017年度の当社グループ研究開発費は約98億円でした。

NSGグループでは、フロートガラスの製造・加工、自動車用ガラス、IT分野で使用されるガラスを中心に約4,000件の特許を取得または申請しています。また、他企業などが開発した技術などについてもライセンス契約に基づき、利用可能なものがあります。

さらに、オンラインコーティング、自動車用ガラスのエンキャプシュレーションや降雨感知センサーなどの分野では、当社グループが保有する特許や技術の一部を当社の定める基準を満たした企業にライセンス供与しています。



Opti-Aim™ ADAS校正ツール

最新運転者支援システム (ADAS) は運転プロセスの自動化技術で、危険を警告して緊急時に車両を完全停止させ、衝突を回避します。このシステムは、前方の景色がはっきり確認できるように多くの場合フロントガラスに取り付けられたカメラやレーザー等の複数センサーの情報に依存しています。

フロントガラスを交換する際には、ADASセンサーを一旦ブラケットから取り外し、システムを切り離す必要があります。その後フロントガラスを交換してセンサーを取り付け直してから、ADASシステムを再校正し、車両が安全に動作するようにする必要があります。このプロセスは複雑で、通常は車両毎に異なります。

このシステムはますます高度化しており、ガラス取り付け業者では対応しきれないため、消費者は別の業者にシステムの校正を頼まなければならないケースが増えています。この増大する問題を解決するため、PilkingtonはOpti-Aim™を開発しました。この製品は初の補修用ガラス校正ツールで、フロントガラス取り付け業者が校正サービスを提供できるようにします。Opti-Aim™システムは、車両毎に必要なに応じて静的および動的校正のどちらでも実行することができます。

車両のフロントガラスを交換した後Opti-Aim™を車両に接続するだけで、ADASシステム再校正プロセスを簡単かつ効率的にすることができます。このツールは車両搭載コンピュータと通信してセンサーを再校正し、ADASシステムが設計通りに動作していることを確認します。

株主・投資家

私たちは、最も優良な長期投資先となることを目指します。

NSGグループは、重点的で国際的な投資家向け広報(IR)活動を通じて、株主・投資家の皆様への情報提供に努めています。事業年度を通じて、決算説明会、各種発行物、工場見学、ウェブサイトなどにより定期的な情報発信を行っています。

NSGグループは、株主・投資家の皆様、金融機関、行政当局、報道機関に対して、透明性、適時性、正確性のある情報を提供するよう努めています。

株主・投資家の皆様に当社グループの戦略や業績を理解した上で投資判断を行っていただくため、できるかぎり多くの情報を提供することを目標に掲げています。

通期および四半期毎の財務諸表を和文と英文で作成し、開示しています。これらの財務諸表は、当社ウェブサイトにも掲載しています。

NSGグループの最高経営責任者(CEO)は、IR活動や主要株主とのコミュニケーションの内容に関して取締役会に定期的な報告を行います。取締役会は、当社グループに関して発行された主要な企業リサーチ情報を受領します。株主総会では質疑応答の時間を設け、株主からの質問に議長や取締役会のメンバーが対応します。

NSGグループの「IR基本方針」には、「オープンでフェアであること」、「企業倫理を遵守すること」という目標が反映されています。当社は東京証券取引所(東証)に株式を上場しており、東証の定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示等に関する規則」(以下「適時開示規則」)に基づいて情報開示を行っています。

また、適時開示規則に該当しない情報についてもその情報を開示することが投資家にとって有益であると判断する場合、迅速かつ公平に情報提供を行うことを方針としています。

経営計画情報の提供

当社グループは、2014年5月に長期戦略ビジョンと中期経営計画(MTP)を発表しました。和文と英文の資料をウェブサイト上で開示しています。

長期戦略ビジョン

当社グループは、高付加価値ガラス企業「VAガラスカンパニー」への変容・変革を長期戦略ビジョンとしています。「VA」とは「value-added(高付加価値)」に由来します。私たちは次の目標を掲げています。

- ガラススペシャリストとして高い信頼を獲得
- 製品とサービスを通じて、世界中の様々な顧客と密接に協働し、独自の付加価値を提供
- 事業構造を変革し、伝統的なビジネスモデルから、高付加価値(VA)製品重視のビジネスモデルに転換

中期経営計画(MTP)

長期戦略ビジョンに基づき、当社グループは2015年3月期から中期経営計画(MTP)を実行しています。MTPの最上位の目的は、財務サステナビリティを確保し、VA ガラスカンパニーへの変容・変革に着手することです。財務目標として、ネット借入/ EBITDA比率を3倍、売上高利益率(ROS)8%以上の2つを掲げ、またROEについては10%以上を達成イメージとして想定しています。2016年10月には、MTPの進捗状況と事業環境の変化を踏まえ、MTPフェーズ2を発表しました。2018年3月期から3年間をMTPフェーズ2と位置づけ、目標必達のための施策に取り組んでいます。

(1) MTPフェーズ2の下での成長戦略

基本方針は、VA戦略を加速し進化させることで持続可能な成長のための確固たる収益基盤を作り、各業務プロセスを見直してよりリーナな事業構造を構築することです。

具体的には、MTPフェーズ2期間中に、以下の4つの重点施策を実施します。

VA No.1戦略の推進

「成長が見込める分野」、「当社の強みがある分野」でのVA化にリソースを集中しトップポジションを目指す

成長ドライバーの確立

選択と集中により、早期に新たな利益成長の原動力を創り出す

ビジネスカルチャーイノベーション

すべての仕事の仕方を見直し、リーナな事業体制を作りこむ

グローバル経営の強化

グループ全体最適を追求し、グローバル経営を進化させる

(2) MTPフェーズ2 - 財務戦略

当社は、より安定した財務基盤を確保し財務サステナビリティを早期に確立するために、資本調達により自己資本を増強することが必要かつ適切であると判断し、第三者割当を通じて総額400億円のA種種類株式を発行しました。同種類株式は、2017年3月24日の臨時株主総会において承認された後、同年3月31日に発行されました。総額400億円のうち約半分は、VA No.1戦略の推進と成長ドライバー確立のために投資し、残りの半分は借入金の返済に使用します。有利子負債削減と更なる金融費用削減という好循環を生みだすことでMTPフェーズ2重点施策の実施を加速させてまいります。なお、当社はA種種類株式について、将来金銭償還することを目指しております。

業績の報告

NSGグループは、四半期ごとに決算を発表し、上期末や年度末には、日本で証券アナリストや機関投資家向けに決算説明会を開催し、第1四半期および第3四半期にも説明を実施しています。決算説明会ではCEO、COO、CFOが直接、業績や事業戦略に対する進捗状況、今後の見通しについて報告と説明を行います。加えて経営陣とIR部は、決算発表後に国内外のアナリストや機関投資家とIR面談を行っています。また、アナリストの方々を対象に工場・施設見学会も適宜開催しています。

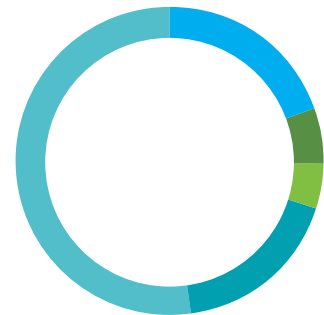
NSGグループは過去数年、財務実績のほかにサステナビリティ関連の実績報告にも注力してきました。サステナビリティレポート最新号はサステナビリティの実現を目指すNSGグループの取り組みと実績を伝える重要な媒体で、和文と英文の両方で発行されます。また、これ以外の実績データについては、当社ウェブサイトの「サステナビリティ」のセクションでご紹介しています。

株主構成

2016年9月末現在の株主の過半数は日本国内の個人投資家であり、金融機関、海外機関投資家および個人投資家が続きます。ただし、日本に本社を置くグローバル企業グループとして、世界中の株主・投資家のニーズに応えるためグローバルなIR活動を展開しています。IR関連の発行物の大半は、和文と英文で発行しております。詳細は本レポートの40ページおよび当社ウェブサイトをご覧ください。海外のアナリスト、株主・投資家との対話の機会を設けるため、必要に応じて海外投資家訪問を実施しています。

NSGグループの株主構成 (所有者別の持株比率)

(2016年9月30日現在)



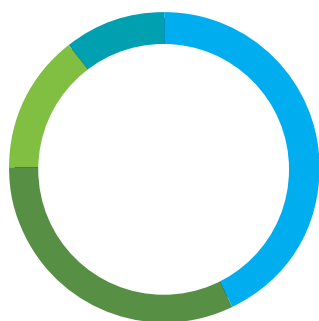
● 金融機関	18.9%
● 証券会社	2.0%
● その他法人	5.0%
● 海外機関投資家および個人投資家	16.7%
● 個人その他	57.4%
● 自己名義株式	0.0%



2017年2月投資家向け決算説明会に出席するNSGグループ経営陣

従業員

NSGグループ従業員分布
(2016年3月31日現在)



- 欧州 43%
- アジア 32%
- 北米 14%
- 南米 11%

NSGグループフォーカス:

世界29カ国に33,000人の従業員(正規および非正規)、20以上の言語を使用

	グループ
正規雇用 男性 FTE	25,186
正規雇用 女性 FTE (18%)	4,547
正規雇用 合計FTE	29,733
非正規雇用 男性 FTE	2,399
非正規雇用 女性 FTE (25%)	808
非正規雇用合計 FTE	3,207
男性合計 FTE	27,585
女性合計 FTE (16%)	5,355
合計 FTE	32,940
常勤 男性 従業員	27,855
常勤 女性 従業員 (16%)	5,344
非常勤 男性 従業員	133
非常勤 女性 従業員 (1%)	124
合計	33,456
男性 マネージャー	2,572
女性 マネージャー (12%)	343
マネージャー合計	2,915

私たちは、従業員にとって働きがいのある職場を目指します。

当社グループの経営理念は、従業員の健康と安全を何よりも重視します。また当社グループは、従業員がその能力を最大限に発揮し、顧客の期待に応えることができるような労働環境づくりを目指しています。

安全、品質、顧客重視、サステナビリティおよび倫理的リーダーシップは私たちの行動の根幹をなし、信頼、相互尊重およびオープンなコミュニケーションの原則は、グループの雇用方針の中核となるものです。

ダイバーシティ

「NSGグループ倫理規範」は、グループの「経営理念と行動指針」を反映したものであり、全ての従業員に求められる行動を規定しています。倫理規範では、特に安全、人権尊重、行動への当事者意識、オープンで積極的なコミュニケーションが強調されています。

倫理規範で最も基本的な点は、事業を安全かつプロフェッショナルに、法に則って倫理的に遂行すること、企業の社会的責任およびサステナビリティを身をもって示すことです。

NSGグループの倫理規範は、国際的に宣言された人権を尊重する立場を明確に示しています。当社グループはこの人権尊重の考え方に沿った雇用方針・雇用慣行をグループ全体で適用することにより、従業員の公正な取り扱いを保証しています。NSGグループの雇用機会均等ポリシーはダイバーシティを尊重し、人種、皮膚の色、信条、宗教、年齢、性別、性的指向、国籍、障害の有無、労働組合への加入、政治的所属、その他のあらゆる法で保護された地位を理由とする差別の禁止を目的としています。

私たちは、グループのダイバーシティ向上に熱意を持って取り組んでおり、2017年度に多くの新しいイニシアチブとプロジェクトを計画しています。

例えば日本のNSGグループは、ダイバーシティおよびインクルージョン宣言を行い、女性管理職や障害者の増加について具体的な数値目標を定めて達成すべく努力しています。

広報

2016年10月、NSGグループはチーフコミュニケーションズオフィサー(CCO)として大原護氏を任命しました。CCOとして社内外広報を担当し、森重樹社長兼CEO直属となります。彼の主な目標は、NSGグループの評判の確立、ビジネス促進、従業員エンゲージメント向上に向けた社内外広報の統合戦略を策定・実行することです。

従業員エンゲージメント

グループ内の持続的エンゲージメントの度合いを測定するため、従業員意識調査を引き続き実施しています。2016年の調査は4地域10カ国を網羅し、6,360人の従業員が参加、回答率は85%に達しました。NSGグループ全体のエンゲージメントスコアは72%でした。

この調査のコンセプトは、グループ内のエンゲージメントを高め、それを維持していくために、従業員の意識を定期的に調査することです。オンライン集計、エンゲージメントの核心を突く厳選された質問、オンラインによる迅速な結果のフィードバック、マネージャーのためのアクションプラン策定ツールの提供を特徴としています。

このモデルにより、マネージャーは従業員からのフィードバックに対して迅速に対応策を実施することができるようになり、従業員エンゲージメントを常に最優先することができます。オンラインによるアンケート回答、結果参照ダッシュボードおよびアクションプラン策定ツールにより、毎年従業員の意識調査を実施し、エンゲージメントに関わる問題を早期に察知して、適切な対応策をローカルで狙いを定めて実施できます。



NSGグループ コンピタンシーモデル

2017年3月期にNSGグループは、ビジネスを成功に導くために求められる行動を反映させ、VA文化への移行と中期経営計画(MTP)達成に向けた取組みにつなげることを意図してコンピタンシーモデルを改定しました。

改定前のモデルと同様、グループの経営理念と行動指針およびビジネスドライバーに則っており、「人間力」、「ビジョン」および「結果へのこだわり」という3つの柱からなります。私たち一人ひとりの仕事への取り組み方として、日々価値を高め、将来の成功を導く基盤となるような行動を根付かせることはどのような意味を持つかを具体的な言葉で説明しています。

新コンピタンシーモデルは、顧客重視、倫理的行動、イノベーション、高収益成長の推進を改めて強調しています。成功した企業は、従業員の積極的参加を促し鼓舞すること、部下に権限を与え育成する指導力のあり方が最良の結果をもたらすことを知っています。こういった行動が新版の「人間力」の項に反映されています。新コンピタンシーモデルは2015年を準備に費やし、業務に直結した実用的なものとするべく広範な検討プロセスを経て完成されました。

このモデルが各自に十分理解され活用されるように、発表に際しては一連の説明会やプロモーション活動が実施されました。2018年3月期も引き続き多くの取り組みを通じて、この新モデルと「自己開発のヒント」、「360度評価」および対話型エクササイズ等の関連資料、アセスメント・センター、採用&選抜サポートなどの利用を促していくことにしています。

「従業員意識調査に参加してから2年が経過しました。この間私たちは、研究開発部内およびレイザム事業所全体で数多くの取り組みに着手しました。シニアマネジメントチームが従業員の意識を改めて知ることができるように、そろそろ次の調査の実施時期です。パルスサーベイは、従来の調査に比べてより迅速に結果が得られ、研究開発部固有の質問を多数含めることができる等の点で優れています。」

Mike Greenall – 欧州リソース& Auto R&Dプログラム ディレクター

NSGグループ コンピタンシーモデル



「優れたリーダーとは、従業員の意欲を喚起しモチベーションを上げ(人間力)、それらを通じて短期的には成果を達成し(結果へのこだわり)、長期的な成功をもたらす(ビジョン)ことのできる人である。」

地域社会

私たちは、事業を行う全ての地域において良き一員となることを目指します。

NSGグループは全世界で約27,000人の従業員を雇用し、日本、欧州、北米、南米、中国、南アジア、東南アジアなど29カ国に主要製造拠点を有しています。世界中で大小合わせて500以上の各拠点で自らの地域社会に雇用、投資などの便益をもたらす一方で、環境に影響を及ぼしています。

NSGグループが事業を展開する地域社会は、事業活動の基盤であるとともに従業員の生活基盤でもあります。地域社会との共存共栄なくして、事業活動の継続はありません。

当社グループが必要な投資を行う場合、通常はその地域社会に雇用や経済効果などのプラスの影響をもたらします。そこで、当社グループの事業が地域社会や環境さらには地域経済に及ぼす影響を理解し適切に対処するために、投資案件ごとに影響評価を実施しています。

私たちは、事業を展開する地域社会の責任ある重要な一員として、地域社会の発展に積極的な貢献を果たすことが非常に重要であると考えています。グループの主力事業や経営資源の活用を通じて地域社会の取り組みを支援していきます。

目的

私たちは、健全に成長を続ける地域社会で事業を展開し、こうした社会から良き一員として認められることを願っています。

私たちが効果的な事業を行い、タイムリーに事業を拡大し、また変化させるためには、まず、地域社会を積極的にサポートし地域の人々の信頼を得ることが不可欠です。

NSGグループは、地域で事業活動を継続するための事業投資に加えて、地域社会への投資も行っています。慈善活動などへの寄付金や物資の提供を通じて、地域社会の健全性の向上や、社会問題の解決に取り組んでいます。また、事業参入や操業、撤退などを含め私たちの事業活動が地域社会に与える影響を評価・管理するプログラムを運用しています。

NSGグループの従業員は、地域社会との良好な関係作りにおいて積極的な貢献を果たすことが奨励されています。例えば、募金活動や地域のプロジェクトにおけるボランティア活動などに参加しています。

NSGグループが2015年3月期に、芸術、医療、福祉、雇用創出、都市再開発などの分野で行った社会貢献支出は、約7,000万円でした。

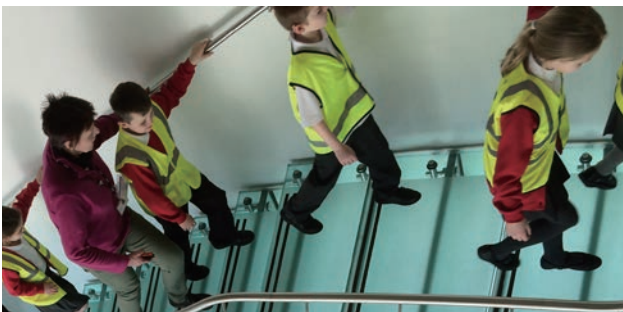


インドのバイザック自動車用ガラス工場は、近隣村民の医療健康診断キャンプの支援を開始し、地域社会の200人の住民に薬を支給しました。



ハリケーン・マシュー

2016年10月、NSGはハリケーン・マシューの被災者のために物資を募り、購入すると発表しました。北米ローリンバーグ事業所でも、このハリケーンの被害を直接受けた従業員が数名いました。



英国レイザムの欧州テクニカルセンターでは、「科学、技術、工学、数学ネットワーク」イニシアチブの一環として、地元小学生の事業所見学を主催しました。訪れた小学生たちは展示エリアを見て回った後、短編ビデオを視聴し、化学分析実験室を見学しました。



ハビタット・フォー・ヒューマニティ

北米トレド工場のボランティアグループは、手頃な価格で住宅を供給する「ハビタット・フォー・ヒューマニティ」プロジェクトのため、奉仕活動に一日を費やしました。この宗教的奉仕団体は、ボランティアの労働奉仕とスポンサーの資金援助、および寄付を使って、毎年郡内で1ないし2軒の家を建てています。北米Pilkington Architectural Glassもスポンサー企業で、窓と労働力の提供により貢献しています。

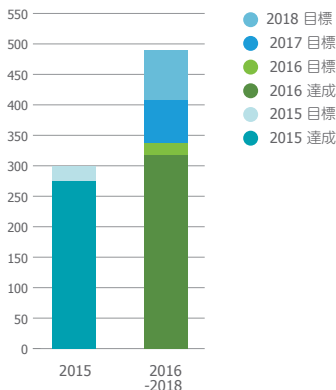


ゴー・グリーン・ビジョン

インドのバイザック自動車用ガラス工場では、世界環境デーに、「ゴー・グリーン・ビジョン」のチームメンバー全員が参加し、敷地内に240本植樹しました。

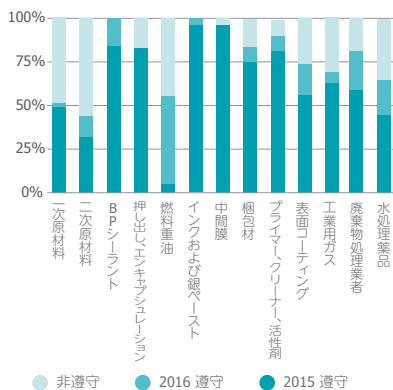
サプライヤー

2016年末までの目標達成度



2015年末までに280社以上の監査が完了しました。「サプライヤー行動規範」への遵守状況を調査しましたが、半数以上のサプライヤーによる全項目適合、3分の1のサプライヤーによる重点項目の適合が確認されました。残りのサプライヤーに関しては、是正を求めました。

サプライヤーの環境リスク ランキング 2015-2016 進捗状況



私たちは、信頼、協力、イノベーションおよびサステナビリティの考え方にに基づき、強固で相互に恩恵をもたらす関係構築を目指しています。

私たちは、世界中の20,000社を超えるサプライヤーから原料や資材、サービスを調達しています。サプライヤーの皆様当社グループの基準を理解し、遵守していただくために、「NSGグループサプライヤー行動規範」を制定し、サプライヤー監査を実施しています。

「サプライヤー行動規範」の概要

私たちは「持続可能な購買プログラム」の一環として、「サプライヤー行動規範」の遵守を確保するためのプログラムを実施しています。この行動規範は、当社グループがサプライヤーに期待する基準として、遵守すべき行動、プロセス、手順を定めています。然るべきカテゴリーのアカウントマネージャーがサプライヤーに対する窓口となる場合もありますが、その場合も購買部門は適切な契約が締結され、関係者に周知されるようにする責任を負います。

当社グループでは、製造の過程で使用する原料、部材、サービスを約20,000社の現地サプライヤーまたはグローバルサプライヤーから調達しています。そのため、当社グループのサステナビリティに向けた目標の達成には、サプライヤーが極めて重要な意味を持ちます。当社グループは、優れた品質のガラス製品を製造して顧客に提供するため、信頼と協力、サステナビリティの考え方に基づくサプライヤーとの強固な関係構築を目指しています。

「サプライヤー行動規範」には幅広い項目が含まれていますが、これはサプライヤーが従事する事業活動が多様多様であるためです。本行動規範は、現時点で可能な限り公平で良識ある事業活動への取り組み方を示すものであり、関連する法律の要求事項も織り込んでいます。本行動規範の内容は、当社グループの「経営理念と行動指針」にも準拠しています。中でも重視するのが、安全、行動への当事者意識、オープンで積極的なコミュニケーションです。当社グループの求める要件を満たすために本行動規範に定める原則を遵守することが、全てのサプライヤーの責務として求められています。

サプライヤーによる行動規範遵守への私たちのこだわりは、カテゴリー戦略の一環としてどのサプライヤーとより長期的な関係を築くかを決定するのに影響を与えてきました。また、コンプライアンスを十分確保するためにどのサプライヤーに対して一層の改善を求める必要があるかの判断基準ともなってきました。

サプライヤー監査

グループ内リソースと外部サービスプロバイダーの組み合わせによって、より多くのサプライヤー監査を進め、引き続き大きな成果を上げています。

この数年私たちは、環境に対して大きな影響を与えるリスクを抱えているサプライヤー (HEI: High Environment Impact (環境に大きなインパクトを与える)と分類)を明らかにするプログラムを実施しています。その目的は、サプライヤーが環境に与えるマイナスの影響を最小限に抑え、プラスの影響を与える活動に積極的に取り組んでもらうようにするためです。対象としたのは、木材梱包、パッチ原材料、廃棄物処理事業、化学物質等のHEIと分類された13の材料カテゴリーです。これらのカテゴリーに分類される全てのサプライヤーは、ISO14001またはこれに相当するその他の環境認証を取得することが期待されます。木材、紙および段ボール梱包材に関しては、その原材料の供給先についての森林管理協議会 (FSC: Forest Stewardship Council) またはPEFC評議会 (Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes) によるチェイン・オブ・カストディ (CoC: Chain-of-Custody) 認証の取得を求めます。

紛争鉱物への対応

当社グループは、紛争鉱物に関する米国金融規制改革法 (ドッド・フランク法) の趣旨・目的

に賛同します。同法は、コンゴ民主共和国および近隣諸国の武装集団の直接・間接的な資金源となる紛争鉱物(スズ、タングステン、金、および tantalum など)の使用を防止することを目的としています。紛争鉱物を含有する可能性のある原材料のサプライヤーを特定することは、当社グループのサプライヤー監査の非常に重要な要素であり、オンライン質問票への回答を通じてデューディリジェンスを実施しています。2015年度は、これらのサプライヤーによるデータの更新プログラムを継続して実施しました。

贈収賄・汚職防止

NSGおよびその子会社は、エージェンツ、コンサルタント、販売店、サービスプロバイダー、運送会社および通関業者をはじめとする、様々な民間部門の個人および団体(総称して「第三者」)と取引を行います。NSGは、その利益を代表するよう、またはグループに代って公務員と接触するよう、通関業者、弁護士、ロビイスト、基準委員会またはその他の仲介活動組織に委託することがあります。NSGを代表して行動するとは、第三者が委任状による正式の代理人としてNSGを代表する状況に限定されるものではありません。それはまた、第三者が公務員や民間部門の他の団体との接触に関与しているか否かに関わりなく、彼らがNSGグループの利益を代表するあらゆる状況に当てはまります。

贈収賄・汚職リスクが高いと考えられるサプライヤーを特定するため、私たちはサプライヤーを継続的に見直します。グループ倫理・コンプライアンス部門は、アンケートや審査プロセスを含むデューディリジェンスを実行します。第三者は、制裁リスト、監視リスト、PEPリスト(政治的影響力のある人物のリスト)、メディア掲載者一覧に名前があるかなど、様々なリストに照らして審査されます。

日本の自動車用ガラス事業は長距離輸送を道路から鉄道とフェリーにシフト

日本の中ほどにある自動車用ガラス加工工場から東北地方や九州地方の顧客へ納品するための長距離輸送は、従来、道路輸送に限られていましたが、道路/鉄道または道路/フェリーの複合輸送方式に切り替えられました。配送ルートの一部で荷物を積載したコンテナをトレーラーから鉄道車両へ積み換えたり、トレーラーを海上フェリーで航送します。これにより、道路輸送距行程の短縮とそれに応じたCO₂排出量の削減が可能になりました。2016年はCO₂排出量が267トン削減され、この切り替えを実施した輸送行程では従来に比べて49%の削減になりました。日本の自動車OE事業における輸送全体では、2.9%のCO₂排出量削減となります。この取り組みでは、新規に運送業者を開拓し、グループの配送業務に加える必要がありました。

サプライヤーと連携した省エネプロジェクト

私たちは主要サプライヤーとの協力を継続して進め、具体的なエネルギー管理上の課題に対するソリューションを導き出すために多様な技術の専門知識を活用しながら、製造現場でエネルギーおよび水消費削減プロジェクトを企画しています。

コミュニケーションと協力

NSGグループは「サステナビリティポリシー」に従って、サプライヤー、政府、規制当局、科学界、その他のステークホルダーと必要に応じて連携をとり、建設的に協力し合い、持続可能な発展という共通目標に向かって進展をもたらすような企業や地域社会によるさまざまな取り組みを推進していきます。

輸送時CO₂排出削減プロジェクト

輸送および倉庫保管は、NSGグループのグローバルな事業展開における調達費用の16%を占めています。私たちは、お客様に満足していただける製品の提供はもとより、グループの工場やお客様に対して、選ばれたサプライヤーから安全かつ納期通りにサービスを提供することに重点を置いています。さらに、効率性を高め、空荷での走行距離を減らし、運搬総重量

を増加させることも重視しています。これらの取り組みは、大気中のCO₂排出量を削減することにより環境への影響を改善することにもなります。昨年、環境改善に貢献する多くのプロジェクトが実施されました。その一例を、以下に掲載します。

欧州建築用ガラス事業部門によるトレーラー軽量化プロジェクトについては、27ページに掲載。



北米自動車補修用ガラス事業部門によるNew Van Fleet 導入とCO₂排出削減

北米自動車補修用ガラス事業では、当社グループのサービスセンター網から顧客への製品配送に使用する車輛を、新車の小型バン「シティアクソプレス」に切り替える戦略です。このプロジェクトにより2016年中に最初の39台が導入されました。数年後には北米事業における納入の大半をこの低燃費小型バンで行う予定です。

新車の小型バン導入に際しては、積載方法やガラス固定装置および固定方法を変更することで、バン1台当たりの積み荷の実質積載密度を損うことなく、同量のガラス輸送に伴うCO₂排出量を実質的かつ目に見える形で削減することができました。

2016年にこれらの新車バンは655,000マイル以上を走行し、CO₂排出量を190トン削減しました。フリート(保有バン全体)としては2.25%のCO₂排出量削減になります。同年中に導入されたバンは全体のわずか10%に過ぎず、また導入してからわずか6カ月しか経っていませんでした。今後4年以内に小型バンの使用を順次増加させ、最終的には北米の補修用ガラス事業におけるバン配送全体の60%まで高めることで、年間約1,600トンのCO₂を削減できる見通しです。

その他の情報

NSGグループは、当社グループやその属する業界、組織体制、戦略、経営目標およびその進捗状況に関して、できるだけ多くの情報を株主・投資家の皆様に提供するため、以下の冊子を定期的に発行しています。

発行物

以下の出版物を発行しています。

NSGグループアニュアルレポート

当社グループの業績を十分にご理解いただくため、本書をご覧ください。(英文のみ)

事業報告書

年2回、6月と12月に発行(和文、英文)。NSGグループの戦略およびその進捗状況を株主の皆様へ提供。

NSGグループ倫理規範

NSGグループの従業員向けに発行する、「NSGグループ倫理規範」の要約リーフレット。事業を行う全ての地域の言語で制作。

会社情報

(2016年3月末現在)

商号：日本板硝子株式会社

統一グローバルブランド：NSGグループ

本社：〒108-6321 東京都港区三田三丁目5番27号

設立年月日：1918年11月22日

資本金：116,449百万円

総資産：812,120百万円

売上高(連結)：629,172百万円

従業員数：27,463人

グループ企業数：219社

Web：www.nsg.com

ウェブサイト

NSGグループのウェブサイト

(英文)

www.nsg.com

(和文)

www.nsg.co.jp

NSGグループのサステナビリティ情報

<http://www.nsg.co.jp/ja-jp/sustainability>

GRI指標については

<http://www.nsg.co.jp/ja-jp/sustainability/griindex>をご覧ください。

